

梅岩の里生誕地整備実行委員会の取り組み状況

令和2年12月4日

○梅岩の里生誕地整備実行委員会 事務局：(財)石田梅岩先生顕彰会、亀岡市

- 第1回 平成30年3月28日
規約の決定、委員構成の確認、役員を選出、事業内容の確認

- 第2回 平成30年7月23日
梅岩の里生誕地整備事業について、寄附募集

- 第3回 平成31年2月15日
ふるさと納税の状況、事業スケジュール

- 第4回 令和元年6月4日
ふるさと納税の状況、梅岩の里生誕地整備事業の実施と建設委員会の設置

- 第5回 令和元年10月9日
公募型プロポーザルについて、実行委員会予算

- 第6回 令和2年2月23日
ふるさと納税の状況、基本計画等について

- 第7回 令和2年6月24日
令和元年度事業報告及び決算、令和2年度事業計画及び予算等

- 第8回 令和2年12月4日
設計業務及び今後のスケジュール、ふるさと納税の状況等について

○梅岩の里生誕地整備実行委員会 建設委員会

○公募型プロポーザルの実施

第1回 令和元年6月17日

建設委員会と役員選出、事業の進め方

第2回 令和元年6月27日

プロポーザルの実施、建設に向けたスケジュール

第3回 令和元年9月18日

プロポーザル事前審査の実施

第4回 令和元年9月25日

プロポーザルヒアリング審査の実施

○基本計画の検討

第5回 令和元年11月13日

基本構想、基本計画の検討、確認

○基本設計の検討

第6回 令和元年12月5日

基本計画の確認、基本設計の検討

第7回 令和2年2月28日

基本設計の検討、収蔵内容の検討、平面計画、

第8回 令和2年3月23日

基本設計の検討、設備計画・収蔵エリアの検討、外構計画の検討、
基本設計図書の精査

第9回 令和2年4月17日
基本設計・建築計画の検討

第10回 令和2年5月22日
基本設計・外構計画の検討

第11回 令和2年6月26日
基本設計・外構計画の検討

第12回 令和2年7月27日
基本設計・概算コストの検討

第13回 令和2年8月24日
基本設計の取りまとめ、条例・各種法令等手続きの検討

梅岩の里生誕地整備事業スケジュール

令和2年12月4日

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実行委員会 設置・運営 生誕地整備に係 るプロポーザル 及び基本計画 基本設計 実施設計 生誕地整備工事	3月						
ふるさと納税の 募集 ふるさと納税 寄附金額（見込）		5月～					
		(実績) 8,380千円	(実績) 68,959千円	R2 年度想定 50,000千円+α 11月末実績 23,245千円	R3 年度想定 50,000千円+α	R4 年度想定 50,000千円+α	
基金（当該分） 残額		取崩 0円 残額 8,380,000円	取崩 7,385,730円 残額 69,953,270円	取崩 23,453,000円 ※R2 当初予算額			
その他関連事業		<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習都市宣言 30周年 ガレリアかめおか 開館 20周年 	<ul style="list-style-type: none"> 心学開講 290年 記念講演会 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習かめおか 財団 30周年 			

○令和2年度 梅岩の里生誕地整備事業に係るふるさと納税額

(単位：円)

	WEB（返礼品あり）		郵便振替（返礼品なし）		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
4月	11	303,000	1	10,000	12	313,000
5月	9	246,000	0	0	9	246,000
6月	10	607,000	1	10,000	11	617,000
7月	20	1,014,000	2	30,000	22	1,044,000
8月	19	676,000	1	10,000	20	686,000
9月	31	1,618,000	0	0	31	1,618,000
10月	40	3,270,000	1	10,000	41	3,280,000
11月	452	15,295,000	5	146,000	457	15,441,000
12月					0	0
1月					0	0
2月					0	0
3月					0	0
合計	592	23,029,000	11	216,000	603	23,245,000

1件平均 38,900 19,636 38,549

※参考

令和元年度11月末時点 464件 19,557,000円

令和元年度末時点 1,565件 68,959,000円

梅岩の里生誕地整備事業実行委員会 資料

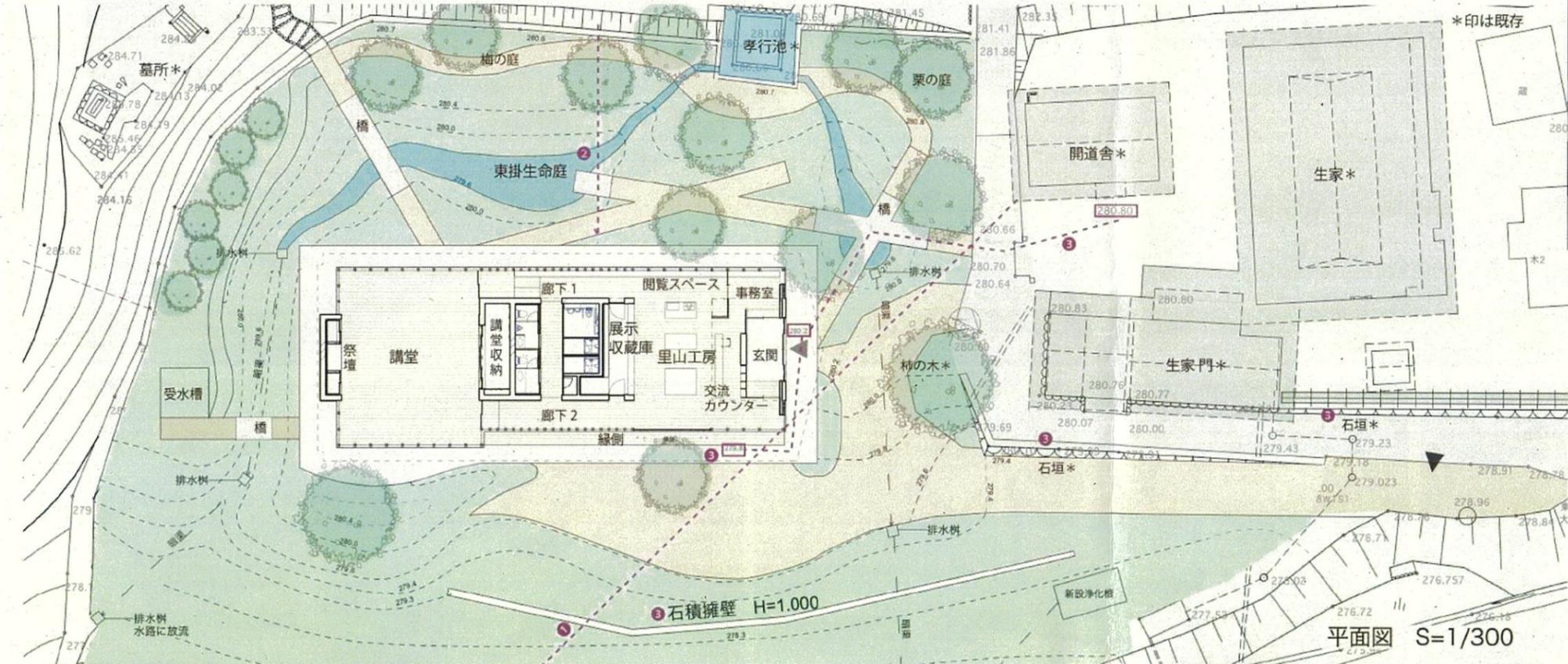
冒頭	本事業レジュメ、パース
A 基本設計の概要	1 建築計画 2 平面計画の考え方 3 所蔵品の収蔵と閲覧 4 外構計画 5 構造計画 6 電気設備計画 7 機械設備計画
B 設計条件の整理	1 各室諸元表 2 収蔵量と収蔵品の把握 3 敷地内排水計画の検討
C 資料編	1 三舎収蔵品
D 図面編	基本設計図（意匠図・外構図）
E 経過編	1 建設委員会協議の変遷 2 配置と地盤面の考え方 3 石積み範囲の検討

2020.12.4

梅岩の里生誕地整備実行委員会



梅岩の里生誕地整備事業 —— 石田梅岩先生の原風景、天地自然と一体に感じられる学びと交流の場



記念館配置計画と外構計画
 生誕地の環境と心学を学ぶ方の思い、自然の厳しさと豊かさを受け止める配置とする。

■配置計画
 ・周辺環境を守り、生家や門から春現寺への眺望を損ねない建物配置(上図①)
 ・府道側に建物を寄せて配置し、土砂災害への用心と日当たりに配慮する。(上図②)
 ・記念館を配置する地盤を下げて生家を尊重しながら、石積により全体の景観をまとめる。(上図③)

■外構計画
 ・梅岩の里の園地全体に回遊性をもたらされる外構計画とする。
 ・植栽は梅岩先生ゆかりの植物の他果樹を多く植え、里山における自然と人の関係を踏襲した計画とする。
 ・既存の水流を活用した水辺により地域の多様な植生触れることができる園地とする。
 ・田んぼのはげと同程度の維持管理による、地域の植生を尊重した自然な園地とする。

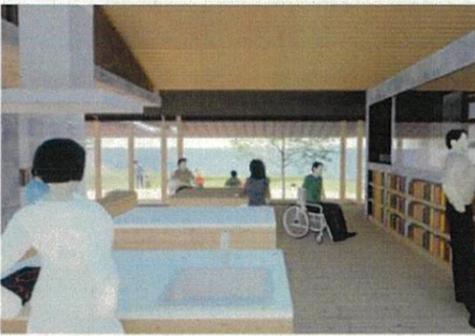


記念館 建築計画

周辺環境全方位に開口部を設け、室内外の視線・風・光、そして豊かな里山の風景をつなぎ、古来から続く自然と人の生活の共存の環境を体感できる空間とする。



講堂 (82 m²)
 精神性高い学びの場。墓前祭の会場としても活用。
 武道芸道や講演会等の活用を想定。天井高さ3m以上、武道用フローリングとする。
 床暖房により冬季も静かな学びができる環境を整備。空手マットや折畳テーブル椅子等の倉庫、AV設備用配管とスクリーンを計画し、多様な学びに対応する。



里山工房 (61 m²)
 気軽に活発な交流と学びの場。收藏品がガラス越しに観覧でき、心学を日常的に感じられる場。
 アイランドキッチンやテーブルを配置し、多様な交流が生まれる場とする。

交流カウンターにより管理者が交流のコアとして活躍できるしつらえとする。

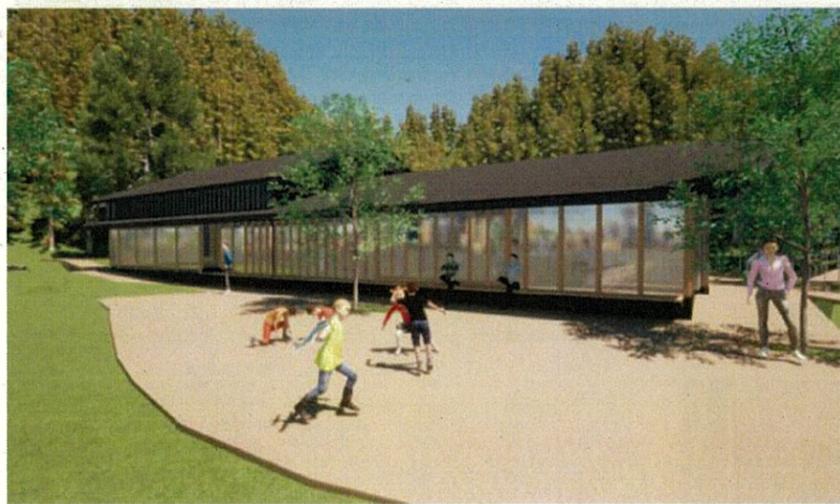


展示収蔵庫 (9.7 m²)
 和綴本や梅岩先生遺品は展示収蔵庫内に閉架で収蔵。
 調湿性内装材と除湿器により文化財に適した環境とする。
 企画展示として、収蔵庫の特別公開や里山工房を使った全館展示なども企画可能。
 里山工房側は梅岩先生関連書籍や講演録等を気軽に手に取りやすい開架式書庫とする。

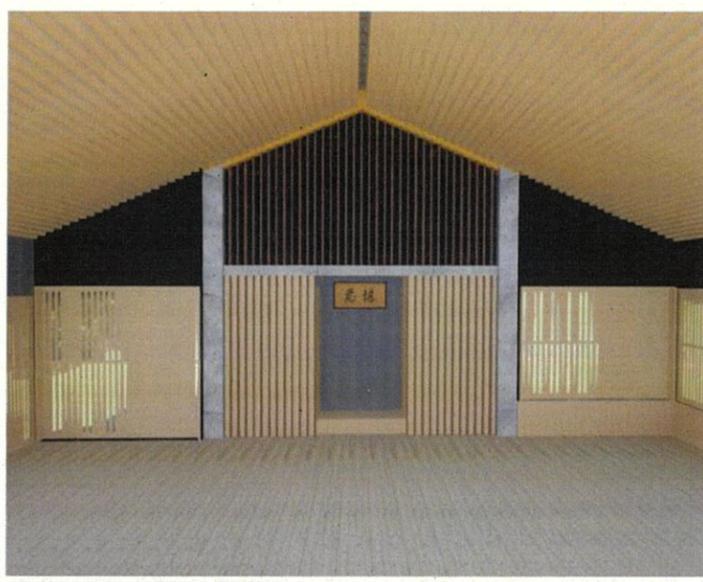
その他、シャワールーム(廊下建具開閉により廊下を男女別更衣室として利用可能)、緑側、事務室 (6.6 m²)、収納、トイレ等を計画。

- 主要内外仕上
 内部 床：フローリング 壁：RC打放、板壁 天井：合成梁表し、岩根吸音板
 外部 屋根：ガルバリウム鋼板 壁：RC打放、杉板張 開口部：木製建具・鋼製建具
- 構造計画
 収蔵庫や倉庫、祭壇等を囲むRC壁をコアとした混構造とすることで、収蔵環境の安定化と外壁周りの開放性を実現する。屋根は一般製材を合せ梁にしてスパンを確保する。
 耐震性等等級：構造体Ⅱ類、非構造部材A類、建築設備Ⅱ類
- 設備計画
 給水は井戸による。排水は汚水雑排水共に新設浄化槽を経由し近傍水路に放流。低圧受電による引込。空調はヒートポンプエアコン、給湯はガスとする。
- 建設計画地内にある既存施設の取り扱い
 ・既存記念館は解体撤去とする。
 ・石碑・案内板・石等は敷地内の適切な場所に移設する。
 ・樹木は一部移植し、整備後の公園計画と一体に配置を決定。
 ・駐車場は現況のまま使用、記念館脇に身障者用駐車場のみ新設。





外構パース



建築パース

1 建築計画

1-1 建築概要

事業面積：2,579 m² (登記面積)

地域地区：都市計画区域外 (用途地域、建蔽率、容積率、日影規制の規定なし)

道路幅員：府道東掛小林線 10.02m

用途：集会場

構造規模：混構造 (木造+鉄筋コンクリート造) 平屋建

建築面積：264.80 m²

延床面積：243.46 m² (容積対象面積も同じ)

主要室：展示収蔵庫、講堂、里山工房および付帯施設

1-2 配置計画 基本方針

- ・ 梅岩先生が幼少の頃に過ごされた環境に思いを馳せる場として、周辺環境を守り、生家や門から春現寺への眺望を損ねない記念館配置とする。
- ・ 梅岩の里のうち最も重要な建物は生家である。梅岩の里全体が一体感を持ちながら、生家の存在感を尊重した建物群となる様、石積により全体の景観をまとめる。
- ・ 府道側に記念館を寄せて配置し、強雨時の山からの水の影響を極力緩和すると共に、日当たりに配慮する。一方生家に対し出すぎた印象にならない様、記念館部分の地盤を 80cm 下げる。
- ・ アプローチまわりのバリアフリー計画を満たすため、搬入土を用い造成を行う。
- ・ 土砂災害特別警戒区域にかからない建物配置とする。

1-3 平面計画 基本方針

- ・ 豊かな里山 (自然と人の生活の共存) の風景が建物内部にいても感じられるよう、周辺環境全方位に開いた計画。
- ・ 閉架収蔵庫はコンクリート躯体で囲う計画とし、安定的な収蔵環境とする。
- ・ 祭壇や掛軸の壁など梅岩先生関連の展示部分をコンクリートとすることで、自由度の高い平面計画ながら鑑賞者が巡りやすい計画。
- ・ 里山工房は収蔵展示の鑑賞・地域の方々の交流・石田梅岩先生について学ぶ場の3つが連関して行える場として、キッチンカウンター、作業台、ラウンジテーブルを配置。
- ・ 里山工房には縁側を設けて屋内外の動線をつなぎ、周辺の里山環境と連携した活動 (料理や工作他) が可能な計画としている。

1-4 立面計画 基本方針

- ・ 民家もつ景観的な特徴 (大きな屋根が生活空間を守る、雨水をスムーズに流す屋根形状) を踏襲することで、周辺の建築と馴染む外観計画。
- ・ 府道から遠望しても人の賑わいが認知しやすいガラススクリーン状の外観。
- ・ 外観であられる壁面の高さを抑えることで、奥ゆかしく生家を引き立てる外観。

1-5 断面計画 基本方針

- ・ 講堂は日本の武芸をはじめ多様な学習活動の場として、最低天井高 3m を確保する。
- ・ 講堂とその他部分の屋根高さの差を活用し空調室外機置場を計画、周辺園地の景観に配慮する。

1-6 仕上計画

内部仕上	床	巾木	壁	天井	備考
講堂	無垢フローリング	なし	RC+木製リブ、板壁	合成梁表し	床材は武道場仕様
廊下 1,2	無垢フローリング	なし	RC、板壁	岩綿吸音板	
里山工房	無垢フローリング	なし	RC、板壁	岩綿吸音板	キッチン床は木調タイル
事務室	無垢フローリング	なし	RC、板壁	岩綿吸音板,RC	
収納	塩ビシート(耐摩耗)	V巾木	RC、板壁	岩綿吸音板	
便所等	塩ビシート(耐染)	V巾木	RC、板壁	岩綿吸音板	

外部仕上

外壁 RC 打放、杉板張

屋根防水 ガルバリウム鋼板ハゼ葺き (勾配屋根部)

アスファルト防水 (外断熱) の上、押えコンクリート (空調機械スペース部)

開口 木製建具、鋼製建具

1-7 性能基準

バリアフリー性能：京都府福祉のまちづくり条例、特定まちづくり施設の基準への適合 (小規模緩和含む)

省エネ性能：一次エネ基準 BEI 1.0 以下、外皮基準 UA、 η AC 1.0 以下とする。

1-8 外構計画 基本方針

- ・ 梅岩の里の園地全体に回遊性がもたらされる外構計画とする。
- ・ 身障者用兼サービス用駐車場を玄関脇に計画する。
- ・ 植栽は梅岩先生ゆかりの植物の他果樹を多く植え、里山における自然と人の関係を踏襲した計画とする。
- ・ 既存の水の流れを活用して水辺をつくり、地域の多様な植生触れることができる園地とする。
- ・ 田んぼのはげと同程度の維持管理による、地域の植生を尊重した園地とする。

1-9 計画場所案内図

S=1/2500



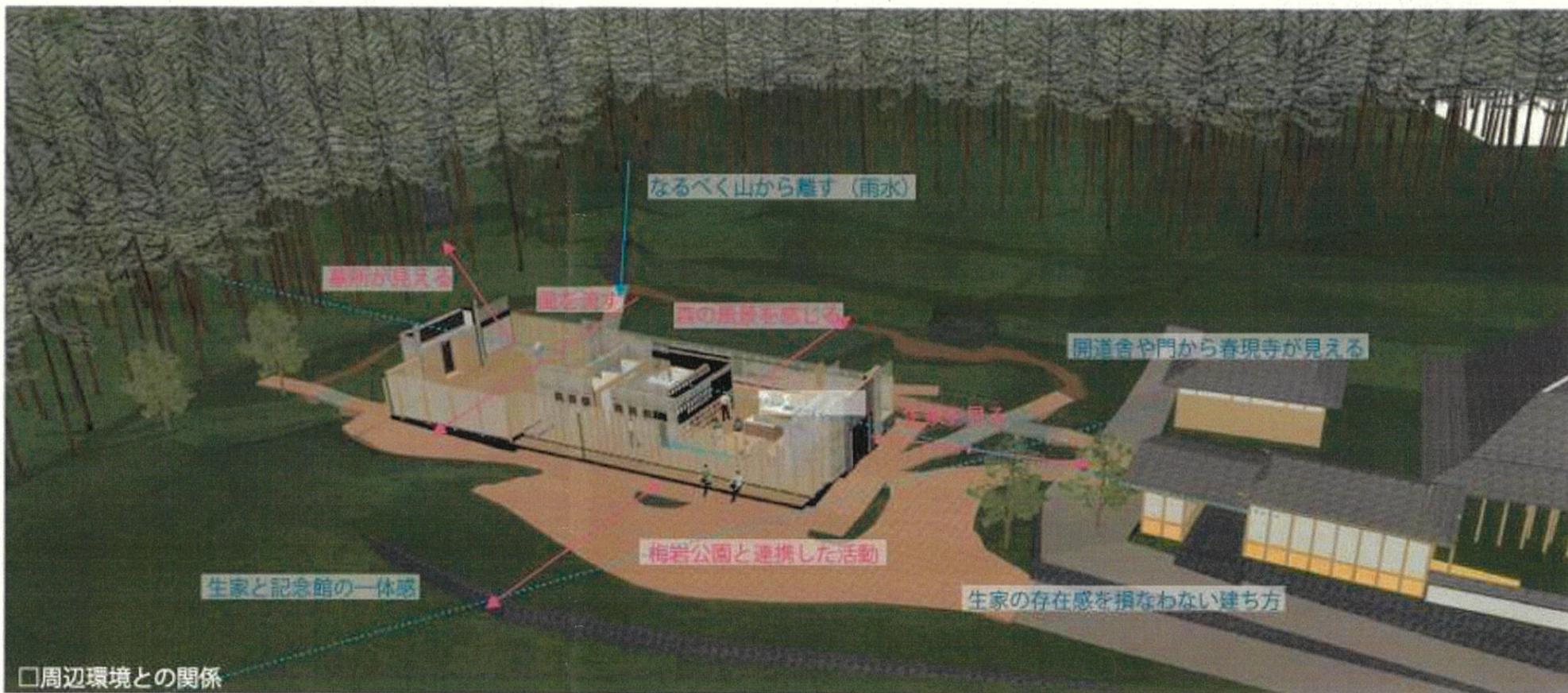
2 平面計画の考え方

□梅岩公園の持ち味

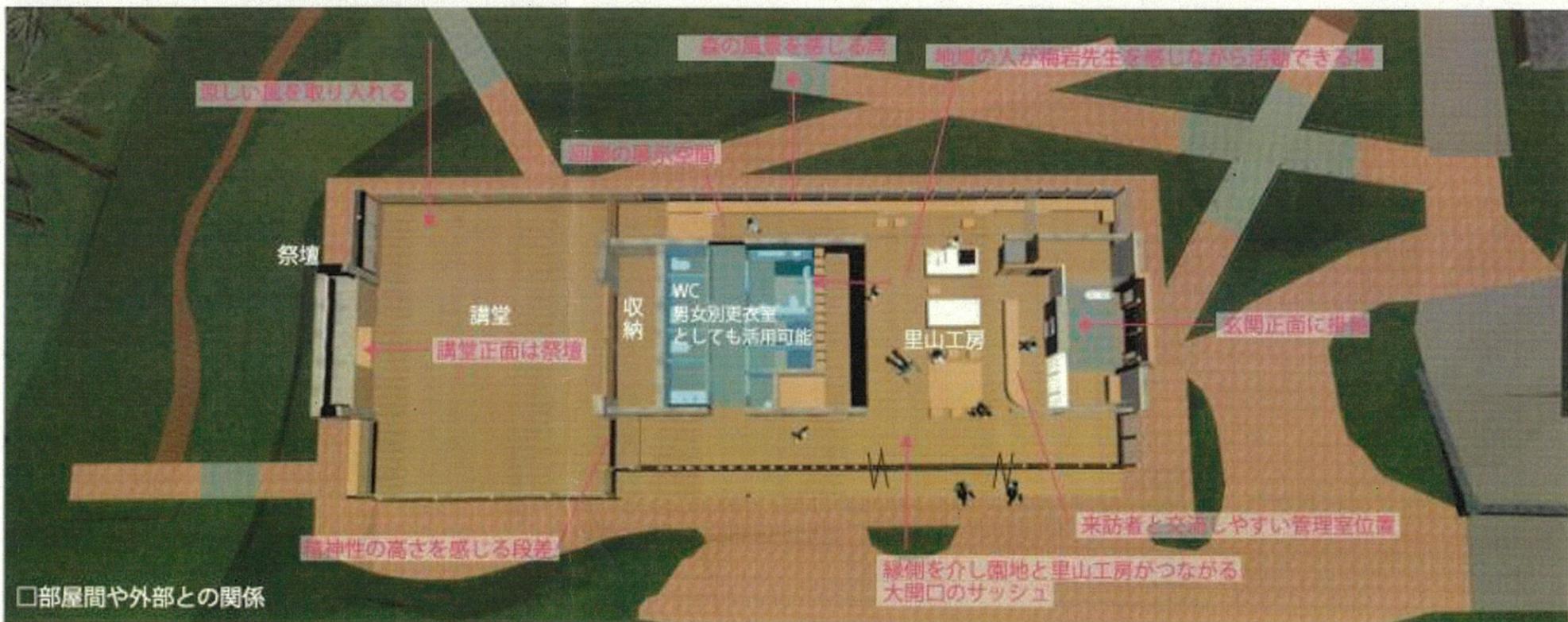
- ・生家と周辺環境
梅岩先生が幼少の頃に体験した環境を追体験し、思いを馳せる場。
- ・梅岩先生を顕彰してきた歴史
現地の灯籠やハスの花、石庭など多くの方の思いの重なりが感じられる。
- ・豊かな里山の自然
社会の工業化と分業化により多くの都市生活者が忘れていた自然の大切さ、古来より日本人の生活を支えてきた環境を体感できる。

□新たな3つの機能

- ・収蔵庫
梅岩先生の貴重な資料が集まり生家や周辺環境とともに心学を学ぶ方々の心の拠り所
- ・講堂（道場）
武道・芸道その他の学びを通じて自然を感じながら日本の心を学ぶ場。
- ・里山工房
梅岩公園や地域と連携した活動を行う。梅岩先生に身近に触れる場。また、自然の恵みや大切さを通じて梅岩先生のお考えに触れる場。



□周辺環境との関係

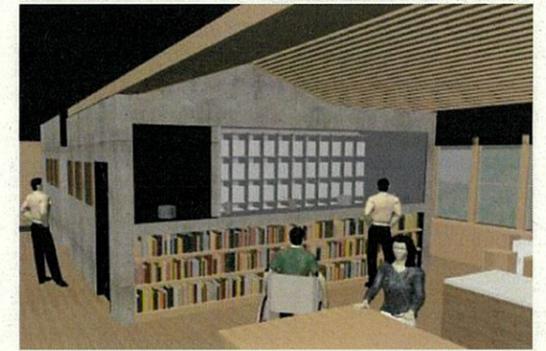


□部屋間や外部との関係

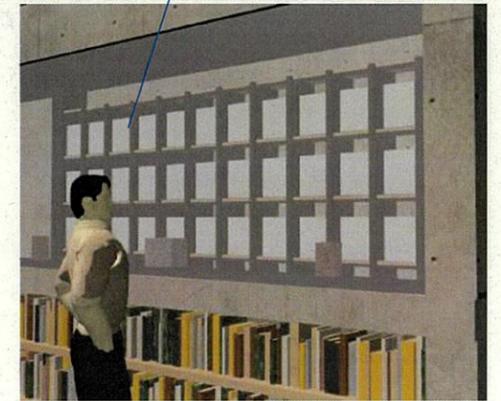
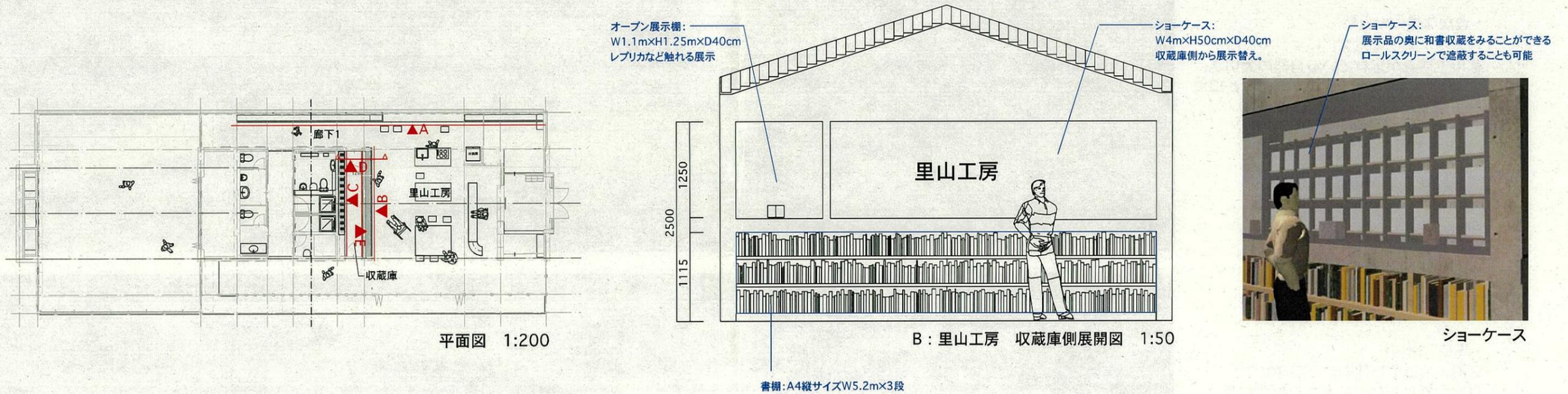
3 所蔵品の収蔵と閲覧

京都明倫舎、大阪明誠舎、そして亀岡の開道舎にて所蔵されている江戸時代の書物や遺品の収蔵が検討されている。収蔵庫は和綴本や遺品の永続的な保管を目指し、調湿性高い収蔵庫用内装材と除湿機により良好な収蔵環境を保持する。一方、里山工房とガラス面を介してつなぐことで、江戸時代の書物が心学の歴史を現代に生き活きと伝え、地域の方が日常的に梅岩先生の教えや地域の歴史に触れる機会をもたらす計画とした。ガラス面には紫外線カットフィルムを施すほか、遮光スクリーンによって閉架収蔵庫としても利用できるようにする。

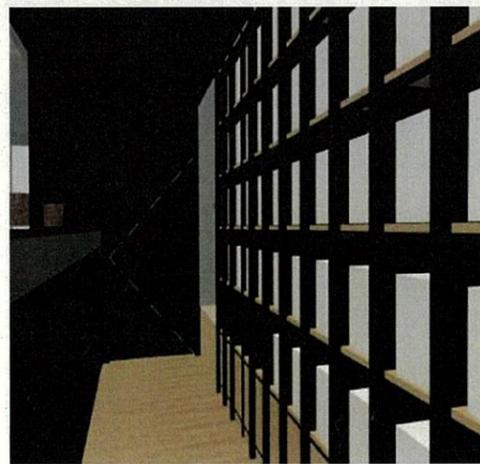
洋綴本や今後収蔵される出版物や講演録等は里山工房側に開いた棚に所蔵し来訪者が気軽に手にとれる計画とする。起源となった江戸時代からの歴史や周辺の自然の有り様を感じながら、知を深めることができる。



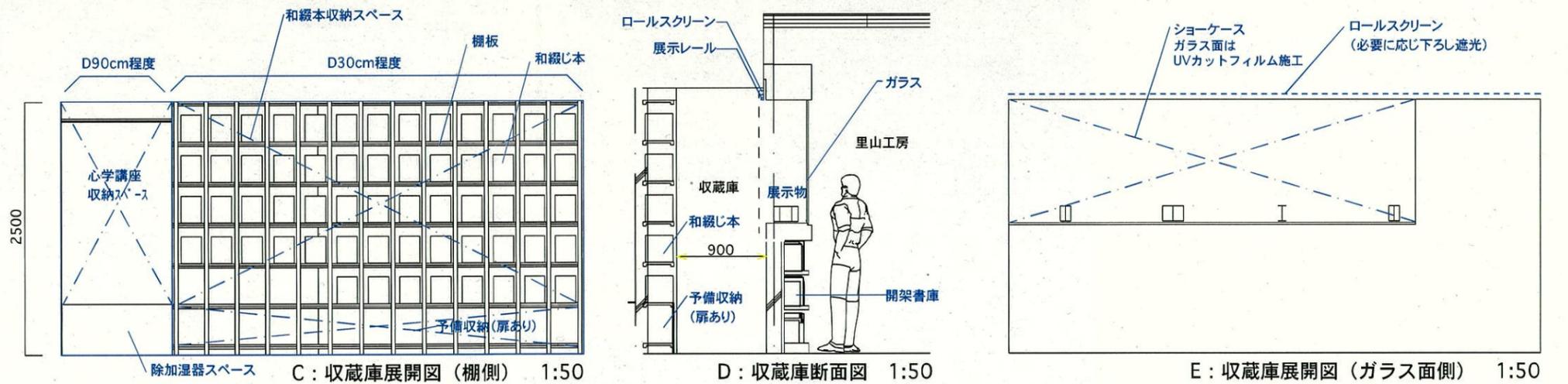
里山工房



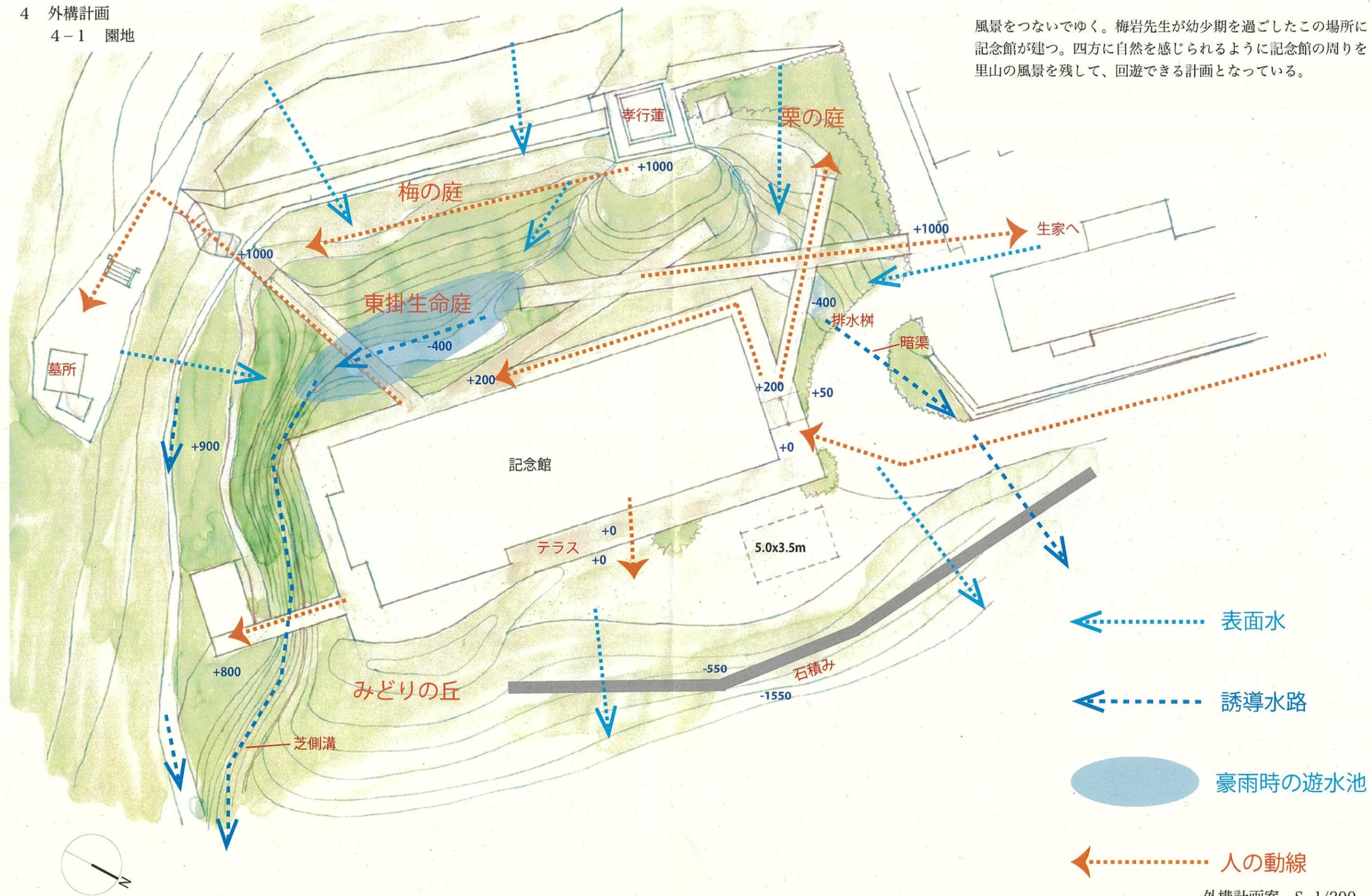
ショーケース



収蔵庫



4 外構計画
4-1 園地



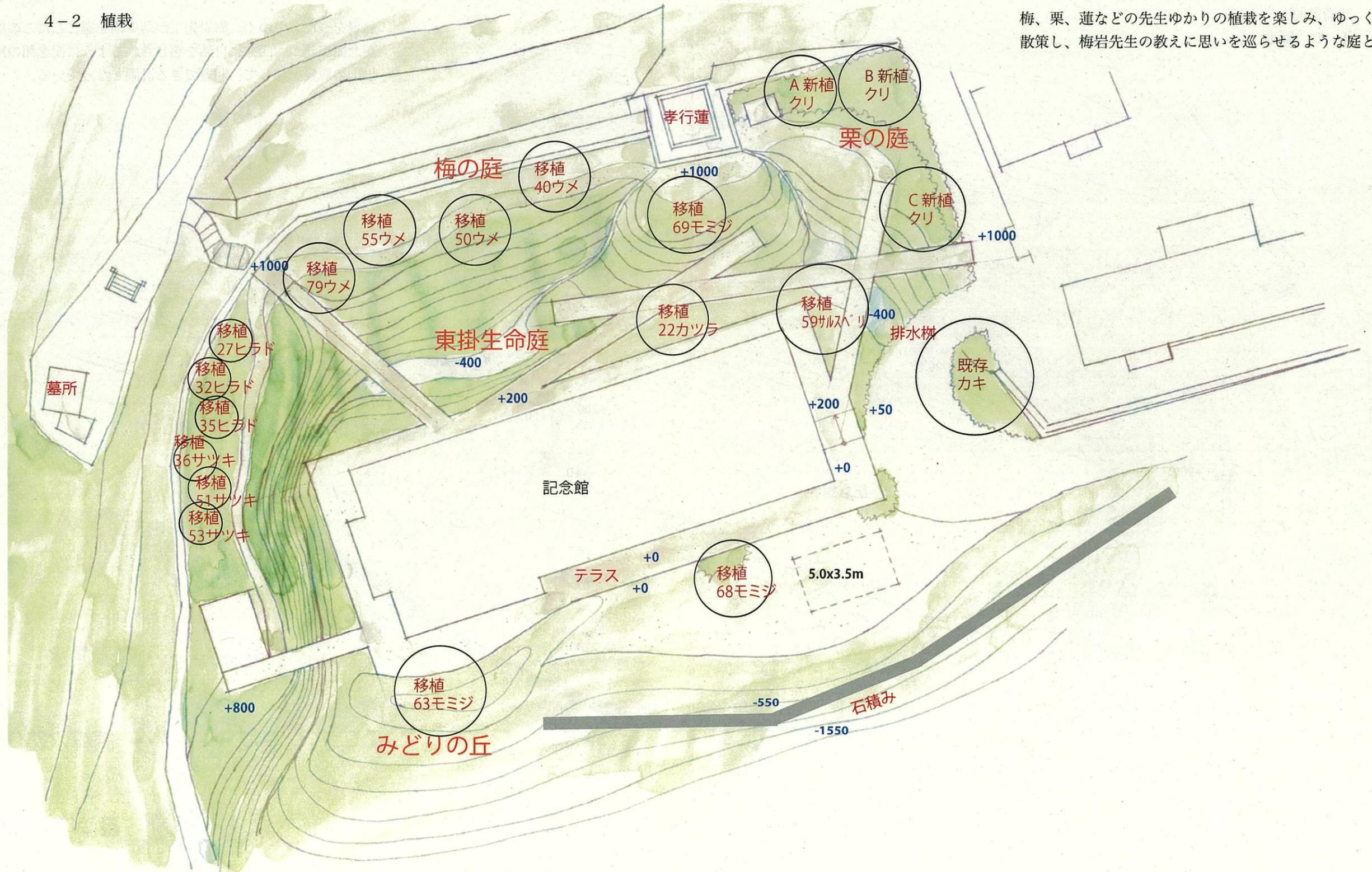
風景をつないでゆく。梅岩先生が幼少期を過ごしたこの場所に記念館が建つ。四方に自然を感じられるように記念館の周りを里山の風景を残して、回遊できる計画となっている。

- ←..... 表面水
- ←..... 誘導水路
- 豪雨時の遊水池
- ←..... 人の動線

外構計画案 S=1/200

4-2 植栽

梅、栗、蓮などの先生ゆかりの植栽を楽しみ、ゆっくりと庭を散策し、梅岩先生の教えに思いを巡らせるような庭とした。



5 構造計画

1-1 設計目標

① 施設に求められる大規模地震時の性能

- ・大地震後に、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られていることを目標とします。
- ・大地震により建築非構造部材の損傷、移動が発生する場合でも、人命の安全確保と二次災害の防止が図られていることを目標とします。

② 設計目標

- ・上部構造の設計目標として、各荷重に対して部材の強度・耐久性・耐火性を確保するとともに、有害な変形を起こさないようにします。
- ・「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説(平成8年版)」に従い、計画建物に必要な安全性を確保します。

耐震安全性の分類	構造体	非構造部材	建築設備
	Ⅱ類	A類	乙類

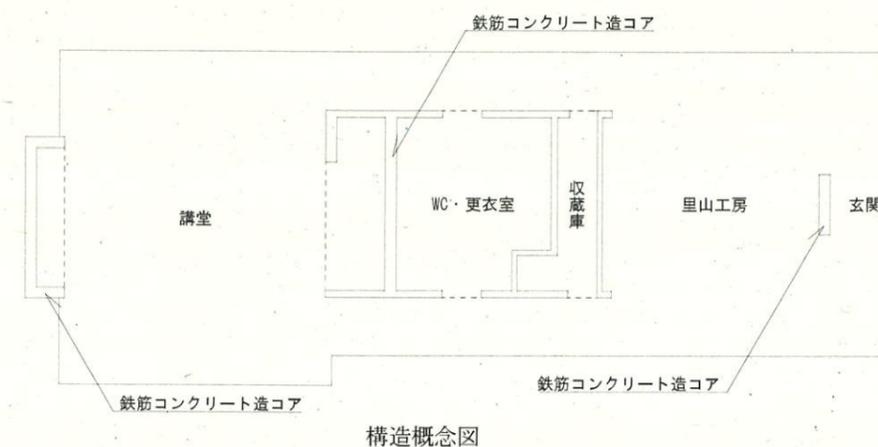
- ・基礎構造の設計目標として、沈下などの障害を生じさせることなく上部構造を確実に支持し、かつ耐久性・経済性のバランスの取れた形式とします。

1-2 上部構造の計画

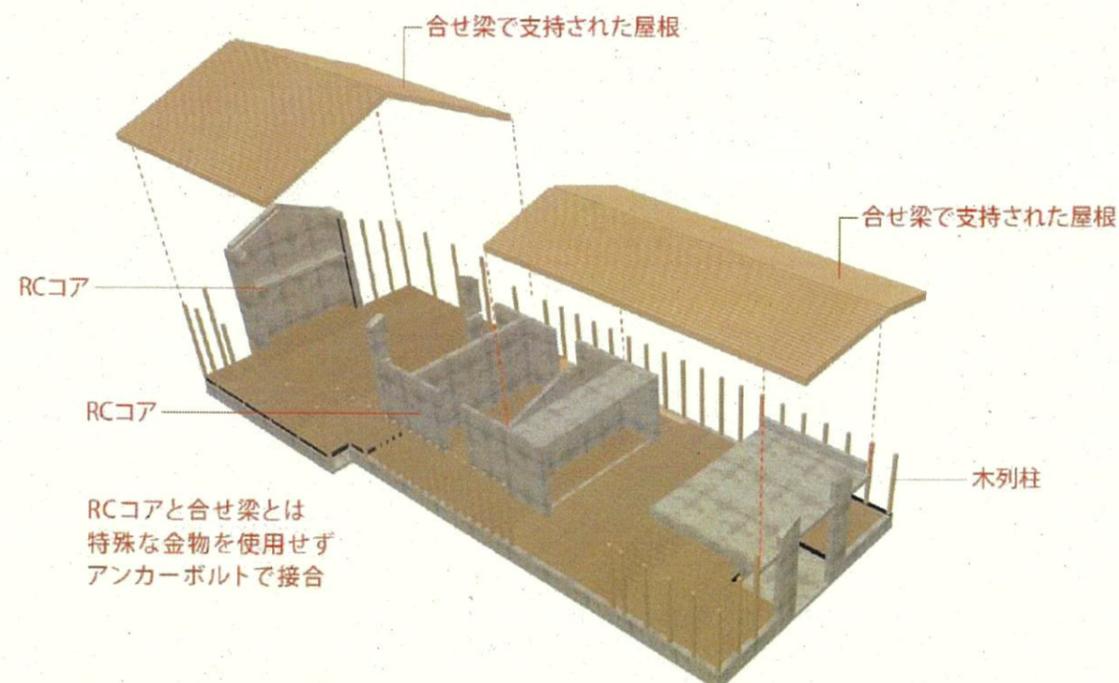
本建築は、比較的大きな諸室である講堂・里山工房部分のボリューム内部に、WC・更衣室・等小さい諸室の集合した部分(コア)が挿入された構成となっています。また、コアの上部は設備スペースの荷重を支持しています。

講堂は、桁行方向 8.19m のスパンのある空間であり、地産製材を極力利用した組梁によって支持し、これを現しとします。また、里山工房は桁行方向 6.83m と、ややスパンが小さくなる為、近隣より入手可能な最大サイズの材により屋根を支持する計画です。

コアは鉄筋コンクリート造とし、中央部以外にも祭壇及び玄関にもバランスよく配置することによって、地震・風などの外力に抵抗しています。また、コア内には収蔵庫もあり、安定した温熱環境で保護することも可能となっている。



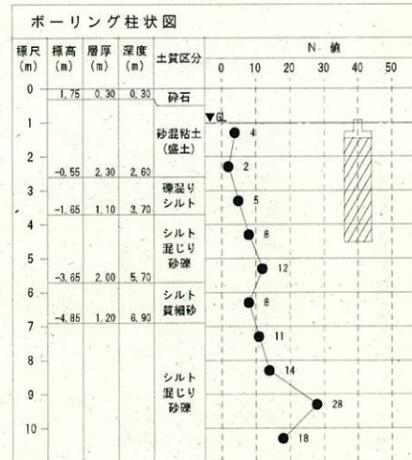
設計ルートは、混構造ルート1とし、RCの壁量を確保します。
屋根面は、構造用合板によって剛性及び耐力を確保し、梁とコンクリートを接続するアンカーボルトを介して地震力をRCコアへと伝達します。



1-3 基礎構造の計画

計画地の地盤は、表層から2.6mにわたり盛土が分布し、以下表層から順に、礫混じりシルト層（層厚 1.1m / N値 5）、シルト混じり砂礫層（層厚 2.0m / N値 8~12）、シルト質細砂層（層厚 1.2m / N値 8）、それ以深の層は N値 11~28のシルト混じり砂礫層が分布することが、敷地内ボーリング試験によりわかっています。

建物基礎は、改良底を GL-3.5m付近とした深層混合改良を施した布基礎とし、地耐力80~100kN/m²を確保します。また、周囲が農地である為、地下水の汚染の少ない砕石パイル工法・小径回転圧入鋼管杭も同時に検討します。



地震荷重は以下によります。

- ・ 用途係数 : 1.25
- ・ 地域係数 : 1.0
- ・ 標準せん断力係数 : 0.2(1次設計) 1.0(2次設計)
- ・ Ai分布 : 告示式による
- ・ 設計ルート : ルート1

積雪荷重は以下によります。

- ・ 積雪の単位荷重 : 20 N/m²/cm
- ・ 垂直積雪深度 : 30 cm

2. 構造仕様説明書

2-1 荷重の設定

代表的な床荷重は以下によります。

階	室名	固定荷重			床・小梁用	架構用	地震用	
		内訳	W	S W				
RF	一般部屋根 多目的 ホール	屋根仕上げ・断熱	200					
		下地	100					
		木架構	400	850	DL	900	900	900
		天井	150	↓	LL	1000	600	400
					TL	1900	1500	1300
RF	屋上設備 置場	屋上設備(均し)	4000					
		勾配調整	1440					
		スラブ t=150	3600	9240	DL	9300	9300	9300
		天井	200	↓	LL	1000	600	400
					TL	10300	9900	9700

※ 必要な屋上設備は DL に含めます。

※ 屋根の LL に関しては「建築構造設計基準(国土交通省大臣官房庁営繕部整備課監修)」より「屋上:通常人が使用しない場合」を採用します。

2-2 使用材料

各部材の使用材料及び断面は以下によります。

- ・ コンクリート : 普通コンクリート Fc24 スランプ 15cm
※耐久性基準強度 - 標準(24M/mm²) 収縮クラックを低減の為スランプ15cm
- ・ 鉄筋 : D19以上 - SD345, D16以下 - SD295
- ・ 木 : 柱 - スギ E70, ヒノキ E90
梁 - スギ E70, ペイマツ E110
土台 - ヒノキ E90
垂木 - スギKD
間柱 - スギKD
裏山産のスギについても極力活用することとします。

6 電気設備計画

1. 引込設備

<電力引込み>

- ・ 構内第1柱（通信と共用）を設け、電力会社架空配線網より引込みを行う。
構内柱以降は地中配管配線にて各電灯盤動力盤へ電源供給を行う。

（引込種別）

・ CET60°	(FEP65)	低圧電灯
・ CET60°	(FEP65)	低圧動力 (I777・ホソ77等)
・ 空配管	(FEP65)	予備

電気容量（低圧引込み）

・ 電灯	照明	6 KW
	コンセント・その他	10 KW
電灯負荷	合計	16 KW
・ 動力	I777	15 KW
動力負荷	合計	15 KW

<通信引込み>

- ・ 構内第1柱（電力と共用）を設け、通信会社架空配線網より引込みを行う。
を行う。

・ 空配管	(FEP50)	TEL
・ 空配管	(FEP50)	LAN
・ 空配管	(FEP50)	CATV (将来)
・ 空配管	(FEP50)	予備

- ・ 電力通信の引込みに伴う引込み負担金は不要とする。

2. 幹線・動力設備

- ・ 引込開閉器盤より建屋内の各分電盤・動力盤までの1次側、2次側電源の電源供給を行う。
- ・ 引込開閉器盤には接地工事を施すこと。
- ・ 給排気FANへの電源、スイッチ及び連動等の制御は電気工事とする。
- ・ 各衛生動力までの電源及び電極、警報の配管配線は電気工事とする。
- ・ 事務室に警報盤を設置する。（浄化槽・井戸ポンプ用）

3. 電灯設備

- ・ 照明器具は全てLED器具とする。
- ・ 建築意匠と調整を行い照明器具の選定、照度設定を行う。
- ・ 配線種別はEEFケーブルを主体とし主に直天部分の配線ルートは建築と調整を行い計画する。
- ・ トイレ倉庫等は消し忘れ防止のため人感センサーにて点滅を行う。
- ・ 外部照明は自動点滅器及びタイマーにて点滅を行う。

4. コンセント設備

- ・ コンセントは原則2口（接地極付）とする。
- ・ コンセントの位置についてはプロット図を参照とする。
- ・ 温水器、自動洗浄便座等の電源供給を行う。

5. 防災照明設備

- ・ 建築基準法に準じ非常照明（非常電源内蔵型）の設置を行う。
- ・ 消防法に準じ誘導灯を設置する。
- ・ 非常照明、誘導灯は全てLEDとする。

6. 情報配管設備

- ・ 事務室等に情報コンセント及び無線LANアクセスポイントを設置出来るよう配管工事を行う。
- ・ 情報コンセントの位置についてはプロット図を参照とする。

7. 電話配管設備

- ・ 事務室等に電話コンセントを設置出来るよう配管工事を行う。
- ・ 電話コンセントの位置についてはプロット図を参照とする。

8. テレビ共同受信設備

- ・ CATVにて引込み可能なよう計画する。
- ・ TV機器は4K・8K対応品とする。
- ・ TVコンセントの位置についてはプロット図を参照とする。

9. 呼出（ドアホン）設備

- ・ 来客用に玄関出入口～事務室間にドアホンを設置する。
- ・ ドアホンはモニター付、カメラ付とする。
- ・ ドアホンの位置についてはプロット図を参照とする。

10. 呼出（トイレ）設備

- ・ HWC内に緊急呼出ボタンを設置し緊急時事務室に呼出を行う。
- ・ トイレ呼出の位置についてはプロット図を参照とする。

11. 映像・音響設備（スクリーン及び配管のみ本工事とする）

- ・ 講堂内に映像・音響設備を設置し、イベントが行える計画とする。
- ・ <機器構成>

手動スクリーン	: 120インチ相当
音響777架	: 音響777 (360W相当)、CD・DVD、ワイヤレスチューナー等収納
スピーカー	: メインスピーカー×2台(リム型)、サブスピーカー(2台)
その他	: プロジェクター、ワイヤレスマイク、ワイヤレスマイク、有線マイク等

12. 防犯・監視カメラ配管設備

- ・ 各出入口、開口部（ドア・窓等）には防犯センサーを設置し夜間、無人時に機械警備を行える計画とする。
- ・ 閉架収蔵庫付近には監視カメラし事務室監視カメラ架にて録画を行う。
- ・ 防犯及び監視カメラの機器、配線は別途工事とし、配管のみ本工事とする。

13. 自動火災報知設備

- ・ 消防法に準じ設置を行う。（300㎡以下は自主設置）
- ・ 事務室に火災受信機を設置する。
- ・ 天井内にも感知器の設置を行う。（準耐火構造）

【共通事項】

- ・ ケーブルはエコケーブルとする。
- ・ 外部または多湿箇所の支持金具類はSUS製または溶融亜鉛メッキ仕上げ品とする。
- ・ 屋外及び屋上に設置する機器は、建築基準法に規定する耐風圧に対応する固定を行う。
- ・ 露出配管配線は指定色とする。

【メンテナンス】

- ・ 非常照明・誘導灯
- バッテリー約4～6年/1回

【法定点検】

- ・ 非常照明・誘導灯
 - ・ 自動火災報知設備
- 2回/1年
2回/1年

7 機械設備計画

A 空調設備計画

① 空調設備

- ・ 空冷ヒートポンプパッケージエアコンによる個別空調とする。
 - ・ 講堂の空調機は天井隠蔽型、里山工房は床置き型の空調機を選定する。
 - ・ 室外機は男子WC上の屋上へ設置する。
 - ・ 開架収納庫は壁周囲の空調を検討する。(要打ち合わせ)
 - ・ 配管材料： 冷媒用被覆銅管
排水用ポリ塩化ビニル管 (VP)
 - ・ 集中リモコンを事務室に設置し、一括運転・停止、温度設定を可能な計画とする。
 - ・ 空調条件は、下記による。
- | | | | |
|------|----|------------|-----------|
| 外気条件 | 夏期 | 36.3℃ (DB) | 62.3% |
| (京都) | 冬期 | -1.4℃ (DB) | 67.2% |
| 内部条件 | 夏期 | 26.0℃ (DB) | 50% (目標値) |
| | 冬期 | 22.0℃ (DB) | 40% (目標値) |

② 換気設備

- ・ 建築基準法及び建築物における衛生的環境の確保に関する法律に適合する。
換気量、除塵機能を適合する。
- ・ 講堂は必要換気量を空調室内機のRAチャンバーへ給気し、排気は壁付換気扇にて行う。
- ・ 里山工房及び事務室を全熱交換機の設置を計画する。
- ・ 収納、WC、シャワー室は天井換気扇の設置を行う。
- ・ 男子WC上の屋上へ排気を行う。
- ・ 換気条件は、事務所・里山工房：20m³/h・人、トイレ：10回/h以上とする。
- ・ 給気・排気を問わず全てに防虫網を設置する。
- ・ 居室換気は、24時間換気機能を有する。
- ・ ダクト類全て、外壁2mの範囲は保温を行う。

B 衛生設備計画

① 衛生器具設備

- ・ 衛生器具は利用者の使いやすい器具を選定する。
洋風便器はロータンク方式とする。
手洗器は手動、水のみとする。

② 給水設備

- ・ 井戸掘削(井戸ポンプ設置)、井戸水を飲料水として使用します。
- ・ 井水受水槽の設置を行う。2m×1m×H2m
- ・ 受水槽+加圧給水ポンプ方式を採用します。
- ・ 濾過設備としてサンドセパレーターの設置、
水質が鉄・マンガンが豊富のため除鉄・除マンガンの濾過を行う。
- ・ 外部散水栓を25m包囲で設置、機器設置スペースへはメンテナンス水栓を設置する。
- ・ 配管材料： 水道用硬質ポリ塩化ビニル管 (HVP)

③ 排水設備

- ・ 屋内合流とする。
- ・ 浄化槽の設置を行う。
用途：集会場 234m² 234m²×0.08=18.7(人槽)
小型合併浄化槽 単体流動方式 20人槽 (使用量により15人槽へ協議)
- ・ 放流は水質基準に準拠し、最寄り雨水樹へ放流する。
- ・ 屋外の樹は小口径樹とする。
- ・ 配管材料： 排水用ポリ塩化ビニル管 (VP)

④ 給湯設備

- ・ 貯湯式電気温水器はお湯を循環させるため常時電気代がかかるため
使用頻度が比較的小さいのでガス式を採用とする。
- ・ シャワー室2か所、シンクへ給湯を行う。
- ・ プロパンガスの設置を行う。コンロ・給湯器への供給を行う。
- ・ 配管材料： ステンレス鋼管

⑤ 床暖房設備

- ・ 講堂にヒートポンプ式温水床暖房の設置を行う。
受電が低圧引込みのため電気容量を抑えることを考慮し温水式とする。
室外機を屋上へ設置、温水床パネルを床下へ設置する。

⑦ 共通(メンテナンス)

- ・ 露出になる機器、配管及びダクトは全て指定色仕上とする。
- ・ 空調機器は故障した際に各部屋ごとの更新が可能。
- ・ 空調室外機(フロン排出抑制法) 圧縮機7.5kw未満 1回/3か月 自身での点検
- ・ 水質検査(水道法第4条) 1回/1年
- ・ 浄化槽点検(浄化槽法第8条) 1回/3か月 4回以上/年
- ・ ろ過機のメンテナンス メーカー推奨 1回/2か月

2 収蔵量と収蔵品の把握

■書物

拠点	項目	数量	単位	棚に換算(m) 洋綴本/軸等	積上高さ(m) 和綴本	備考	新記念館 に保管	現在の状態
◆明誠舎（大阪）	和綴じ本	8	箱		6.48	調査日：2020.3.5 軸の箱100×100×800	未定	地下金庫前室で保管。比較的安定した温湿度空間。 中性紙に包まれ中性紙の箱に入れて積み上げ保管。 (行灯は金庫内に保管。寄託予定なし)
	掛け軸	2	本	0.8				
	中尾様保管書籍			9	0.4	調査日：2020.3.5	未定	一般的な居住環境にオープンな棚で保管。 他の思想家も含めた全集類もあり。
◆明倫舎（京都）	書籍等	1360	冊	3.68	10.92	調査日：2019.12.6		柴田様ご自宅（日本家屋）の書棚や箱で保管 専用の木箱内に一部縦置き、多くは平積みで保管。 一部ダンボール箱に収納。
◆開道舎（亀岡）	書籍等			18.4	5.2	調査日：2020.1.8	○	オープンな棚で保管。
◆現記念館（亀岡）	田辺肥州氏文庫 木版			5.3 1.76		調査日：2020.1.8 5枚重ねで棚に置く場合		ガラス扉のついた書棚に保管。
合計				38.94	23	m		

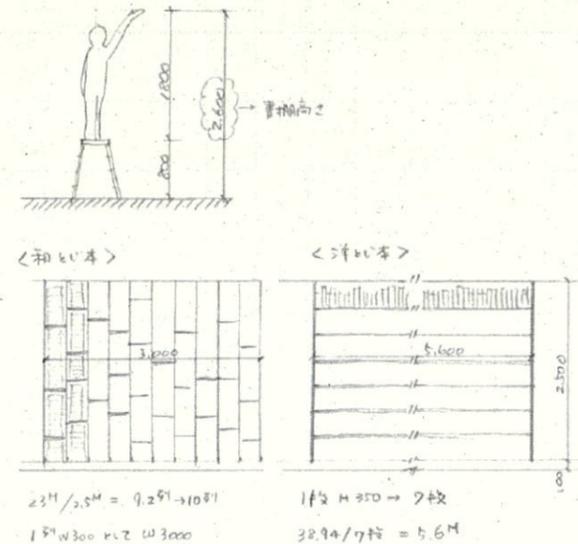
○蔵書等の管理等について（未確定）

書籍や美術品等の整理や管理は、亀岡市文化資料館の学芸員等で対応する
開架展示する場合の取り扱いも、亀岡市文化資料館の学芸員等で対応する

○書物収納スペースの具体化案

(2020.3.31文化資料館樋口様と協議)

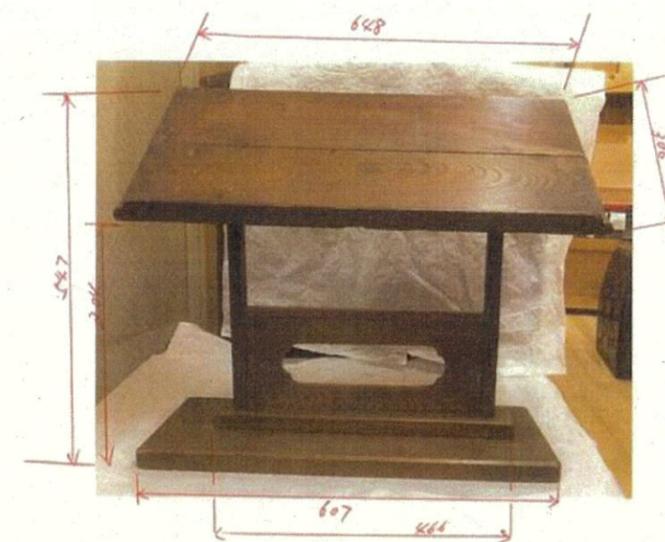
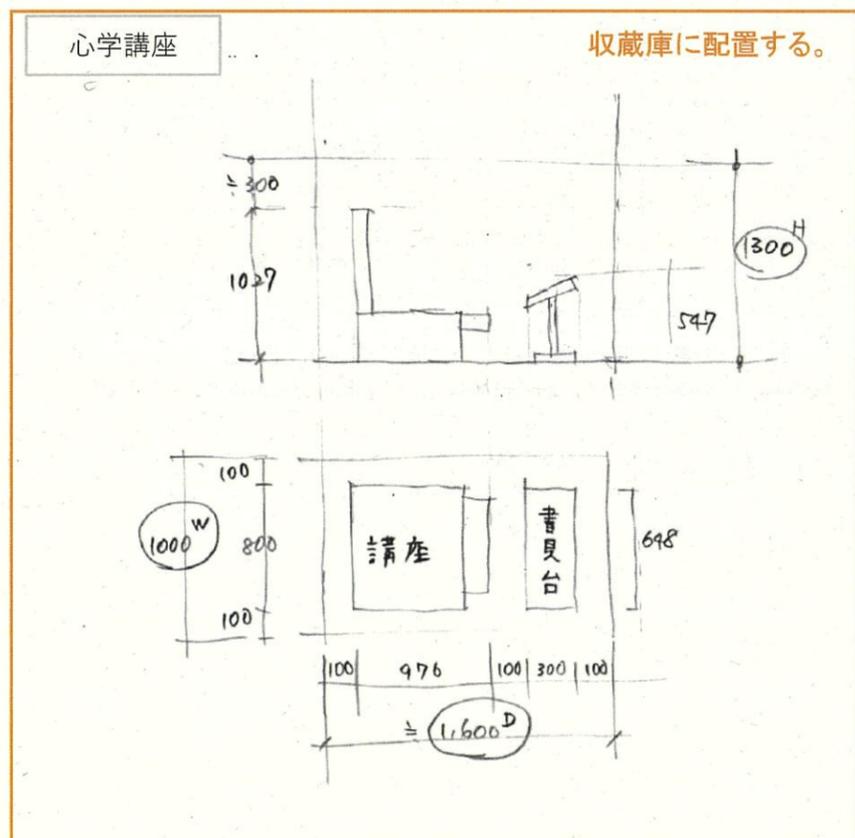
- ・和綴/洋綴それぞれに収納棚を想定。
- ・環境管理下の収蔵スペースに収蔵する書物は和綴本のみとする。
現在3舎にある和綴本は収蔵庫に収蔵する。
- ・洋綴本は環境管理下の収蔵庫への収蔵は不要。
来館者が気軽に手に触れられる配置とする。
収蔵量はW2700H2000程度の書棚の収蔵量でよい。



書籍以外の-収蔵可能性がある品は下記となる。心学講座（書見台含む）は収納するものとして建築計画を行う。その他の品については今後事務局にて仕分けを行う。

■その他

拠点	項目	数量	単位	サイズ	新記念館に保管	今後の課題
◆現記念館（亀岡）	木机	1	台	700WX400HX350D		保管後新記念館で所蔵/移譲/破棄 の分類が必要。
	木机	4	台	940WX300HX400D		
	書棚	3	台			
	書画（額装）	4	つ			
	写真パネル	7	枚			
	その他			高台や磁気の壺、ホワイトボード、投影用スクリーン 他		
◆亀岡市文化資料館	心学講座	1	台	800WX1027HX976D	明倫舎所蔵品	文化資料館にて保管
	書見台	1	台	648WX547HX300D	明倫舎所蔵品	文化資料館にて保管



3 敷地内排水計画の検討

① 雨水流出量の算出

・雨水流出量は以下の公式および数値によって算出する。(開発許可に関する技術的基準)

$$Q = 0.2778 \times f \times r \times A \times G$$

Q : 雨水流出量 (m³/sec)

r : 降雨強度 20mm/15min = 80 (mm/h)

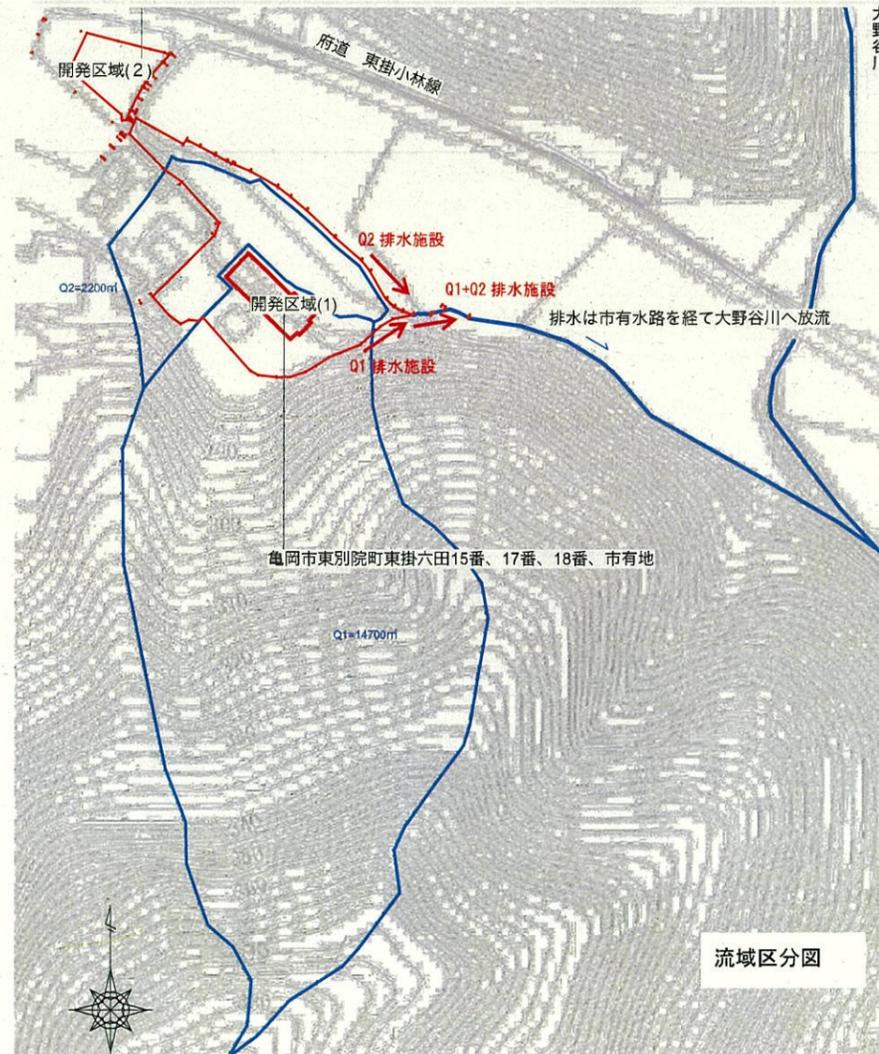
f : 流出係数 0.8

A : 集水面積 Q1 : 0.0147km², Q2 : 0.0022km²

G : 土砂混入率 1+0.1 (傾斜地のみ)

$$Q1 = 0.2778 \times 0.8 \times 80 \times 0.0147 \times (1+0.1) = 0.287 \text{ m}^3/\text{sec}$$

$$Q2 = 0.2778 \times 0.8 \times 80 \times 0.0022 \times (1+0.1) = 0.043 \text{ m}^3/\text{sec}$$



② 雨水排水施設の流量計算

・流量の計算は、暗渠、開渠ともにマンニング式により、管渠10割水深、開渠9割水深で算定する。また最大流速は、3.0m/sec以下とする。

$$Q = A \cdot V$$

$$V = 1/n \cdot R^{2/3} \cdot I^{1/2}$$

Q : 流量 (m³/sec)

A : 流水の断面積 (m²)

V : 流速 (m/sec)

n : 粗度係数 (塩ビ管: 0.010、ヒューム管・CO二次製品: 0.013)

R : 径深 = A/P (m)

I : 勾配 (m)

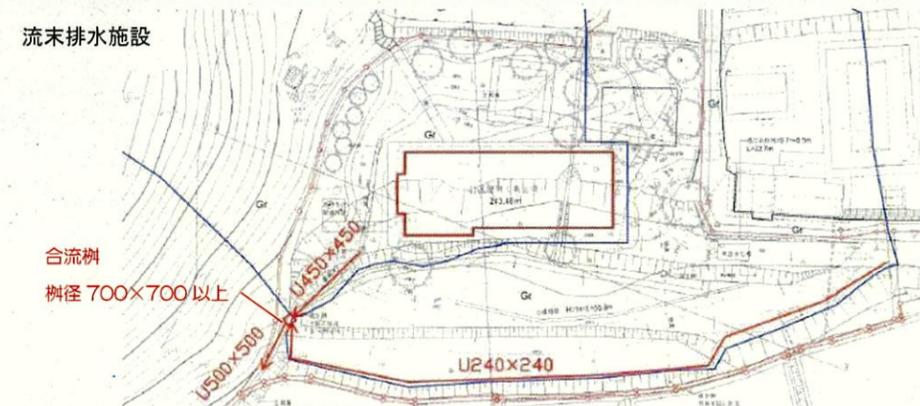
流量表

排水区名称	梅岩の里公園
-------	--------

施設番号	面積		流出量			計画雨水施設				備考
	各線 km ²	追加 km ²	単位 m ³ /sha	総量 m ³ /s	総水量 m ³ /s	断面 mm	勾配 %	流速 m/s	流量 m ³ /s	
Q1	0.0147	0.0147	19.557	0.287	0.287	○ 400	12.0	2.360	0.296	管渠: 清流 (塩ビ管)
						□ 450 × 450	6.0	1.642	0.299	側溝: 9割水深時水量
Q2	0.0022	0.0022	19.557	0.043	0.043	○ 200	12.0	1.487	0.047	管渠: 清流 (塩ビ管)
						□ 240 × 240	4.0	0.882	0.046	側溝: 9割水深時水量
Q1+Q2	0.0169		19.557	0.331	0.331	□ 500 × 500	5.0	1.608	0.362	側溝: 9割水深時水量

- ・ Q1 排水施設 : φ400 i=1.2%以上の管渠 (塩ビ) または 450×450 i=0.6%以上の開渠
- ・ Q2 排水施設 : φ200 i=1.0%以上の管渠 (塩ビ) または 240×240 i=0.4%以上の開渠
- ・ Q1+Q2 排水施設 (場外) : 500×500 i=0.5%以上の開渠
- ・ 合流樹サイズ : 流入・流出施設サイズ+200 → 700×700

流末排水施設



C 資料編

I 三舎収蔵品

■亀岡開道舎（和書のみ）

表紙大きさ	160×225	210×300	190×270	合計(mm)
厚み計(mm)	4030	30	1115	5175

■現記念館

田辺肥州氏文庫(洋綴本) 書棚大きさ			
A	1750Wx240Hx250D		
B	1750Wx240Hx250D	棚長さ計(mm)	
C	1750Wx240Hx250D		5250
その他収蔵品			
木版	440WX220HX20 X20枚		
木机	700WX400HX350D		
木机	940WX300HX400D x 4		



■京都明倫舎

棚番号	棚大きさ	備考
A,B,C,D	920W320H320D	内部の書籍はD250程度 (E~Hの倍の大きさ)
E,F,G,H	225W900H320D	
I,J	450W900H320D	
番号なし1	230W700H320D	
番号なし2	230W620H320D	
番号なし3	230W650H320D	
番号なし4	230W650H320D	
番号なし5	230W800H320D	
ダンボール	250W150H350D	

■大阪明誠舎

ひらのまちギャラリー保管分<和書>

表紙大きさ	書籍横上げ高さ				
	180×270	160×250	180×240	220×160	120×160
箱ナンバー1	750		110		
2	40		500	500	
3	80	780			
4	500	250			
5	250	500			
6	1000				
7	500				
8	500				220
計	3620	1530	610	500	220
				総合計(mm)	6480

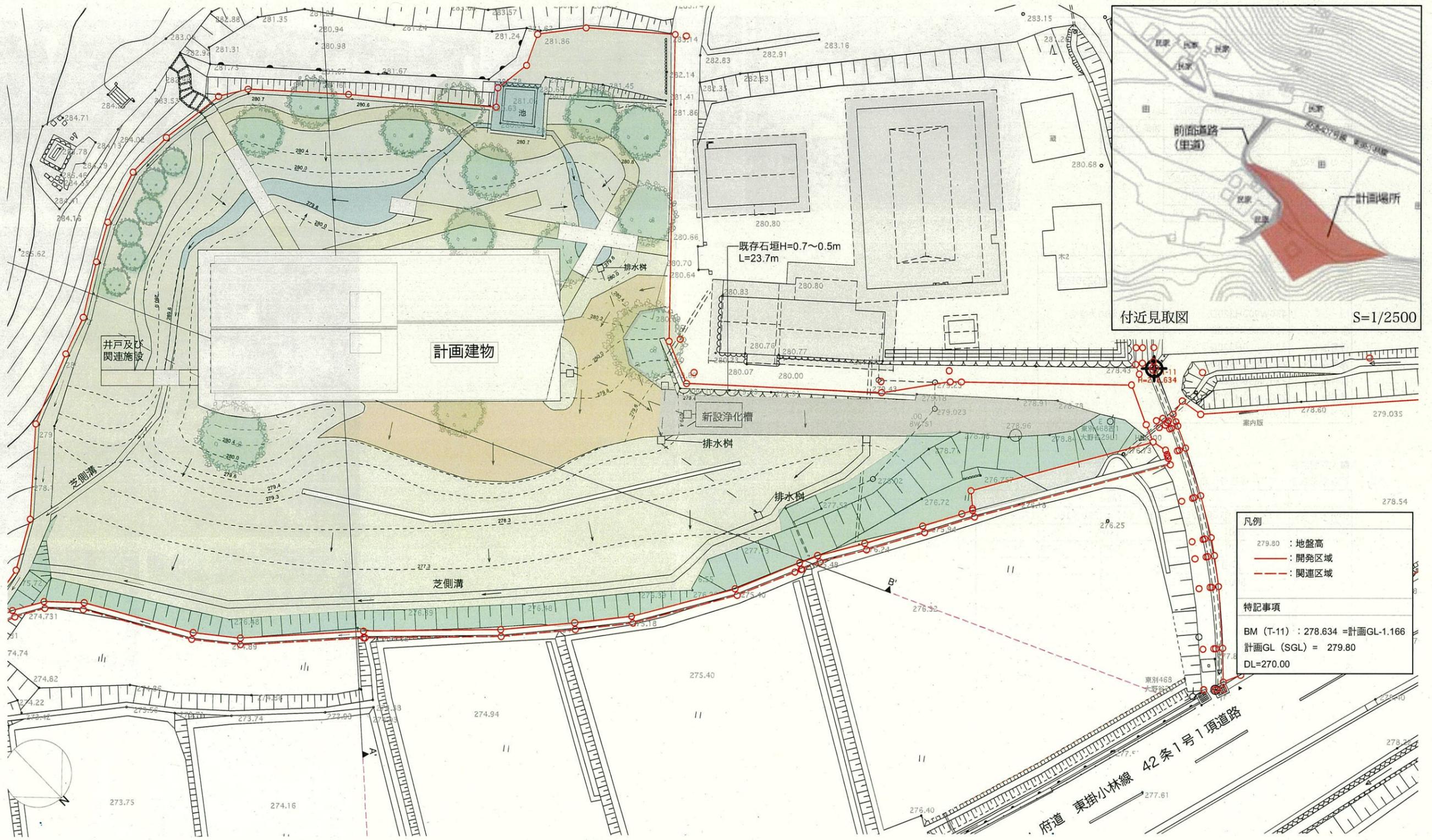
中尾様宅保管分

和書	書籍横み上げ高さ			
	表紙大きさ	200×270	160×250	計(mm)
		200	200	400
洋綴	押入棚長さ			
		5760	3200	8960

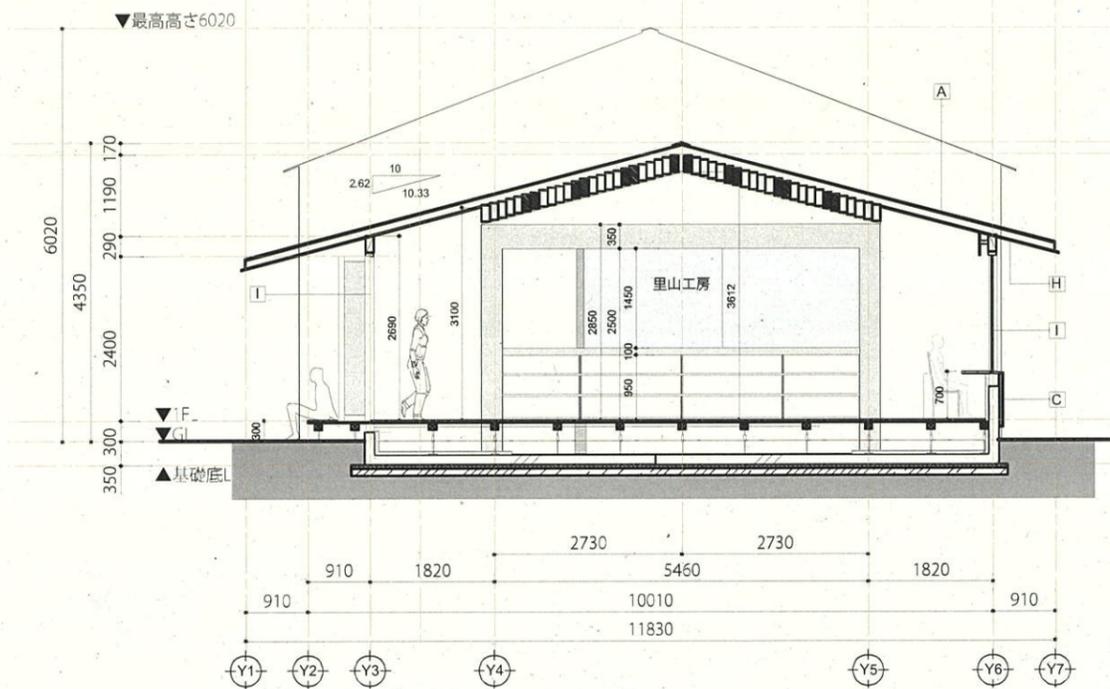


ひらのまちギャラリーでは中性紙の箱にて、中性紙に包み保管。
和紙の壁で調湿に配慮され、地下なので気温も安定している。

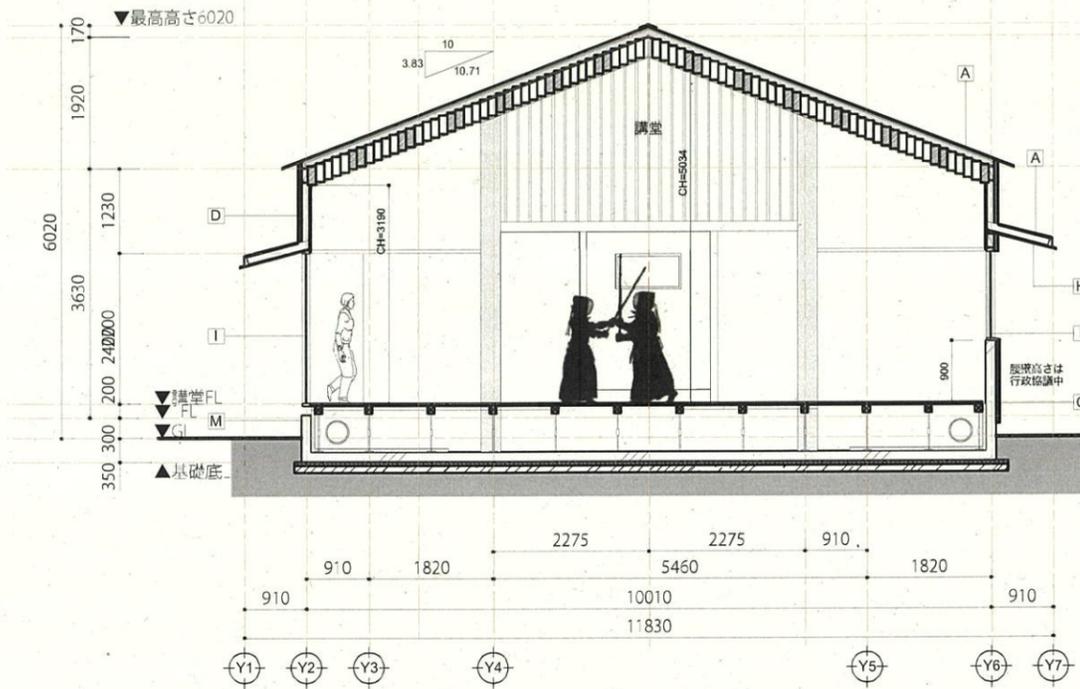
意匠図



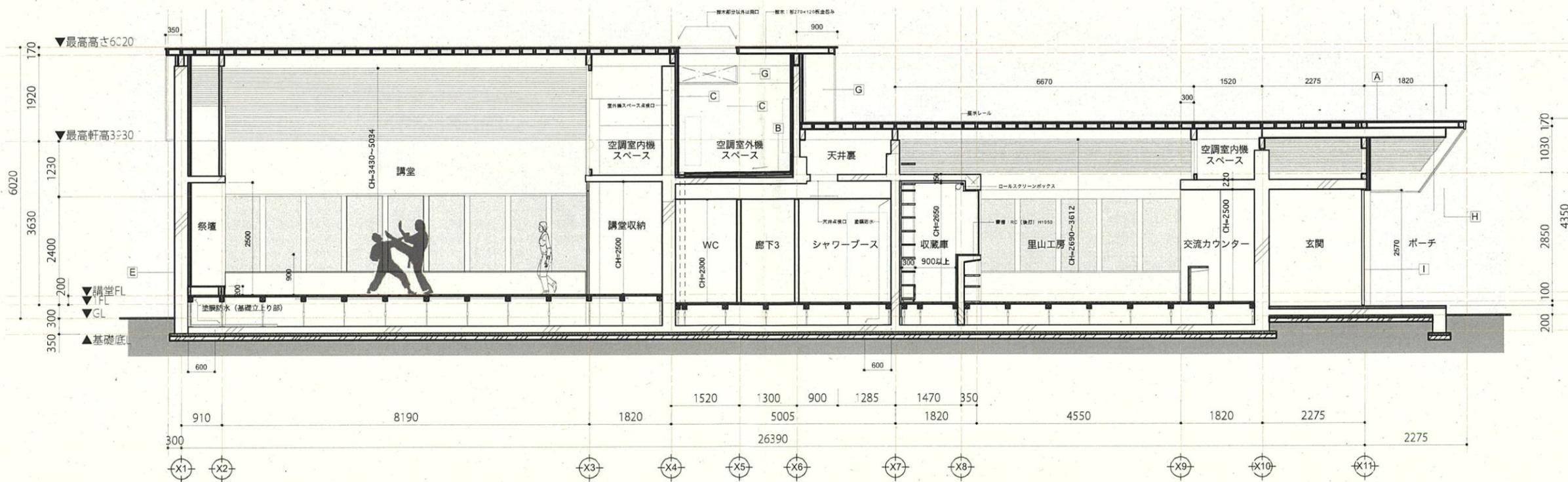
配置図 S=1/500



里山工房断面図

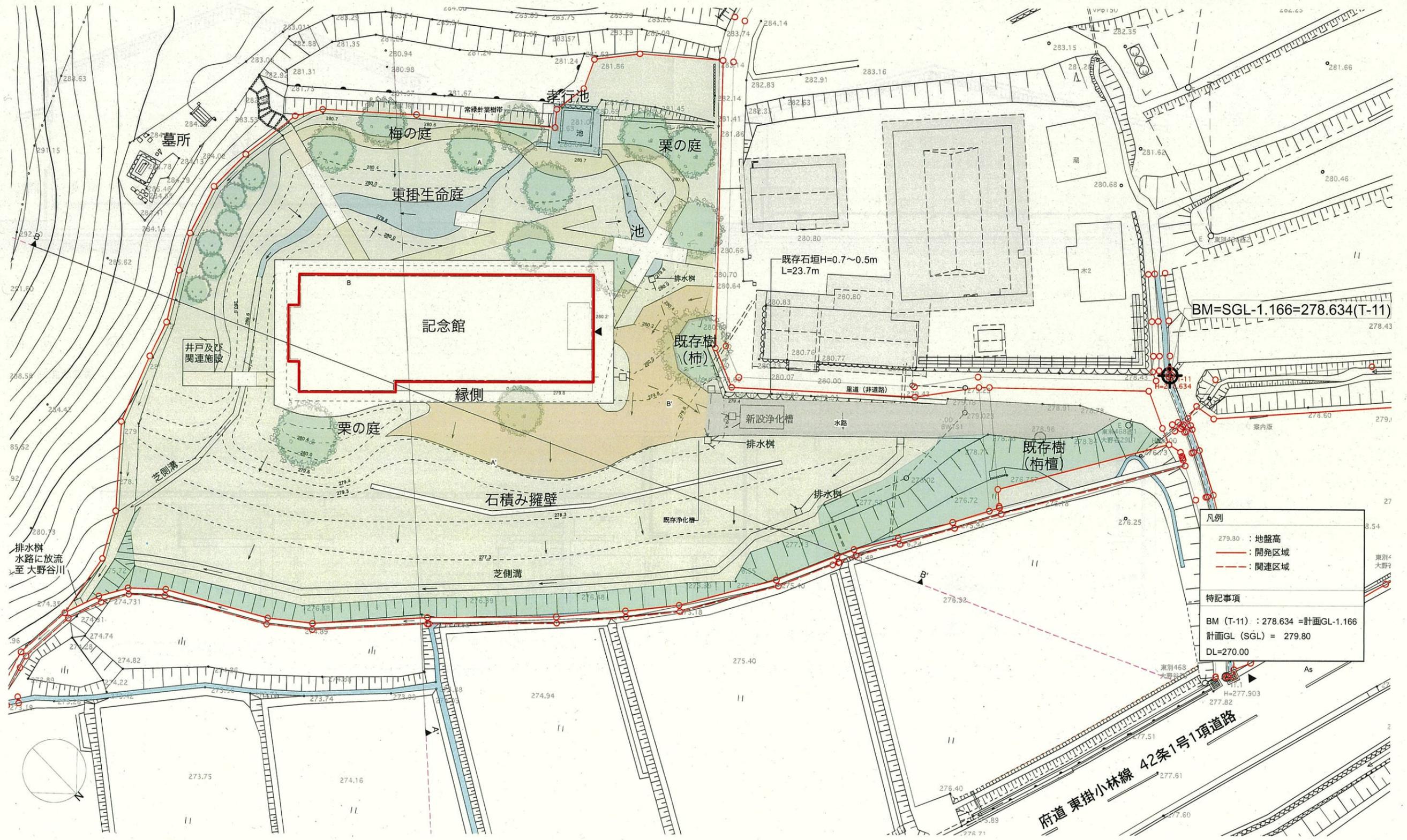


講堂断面図

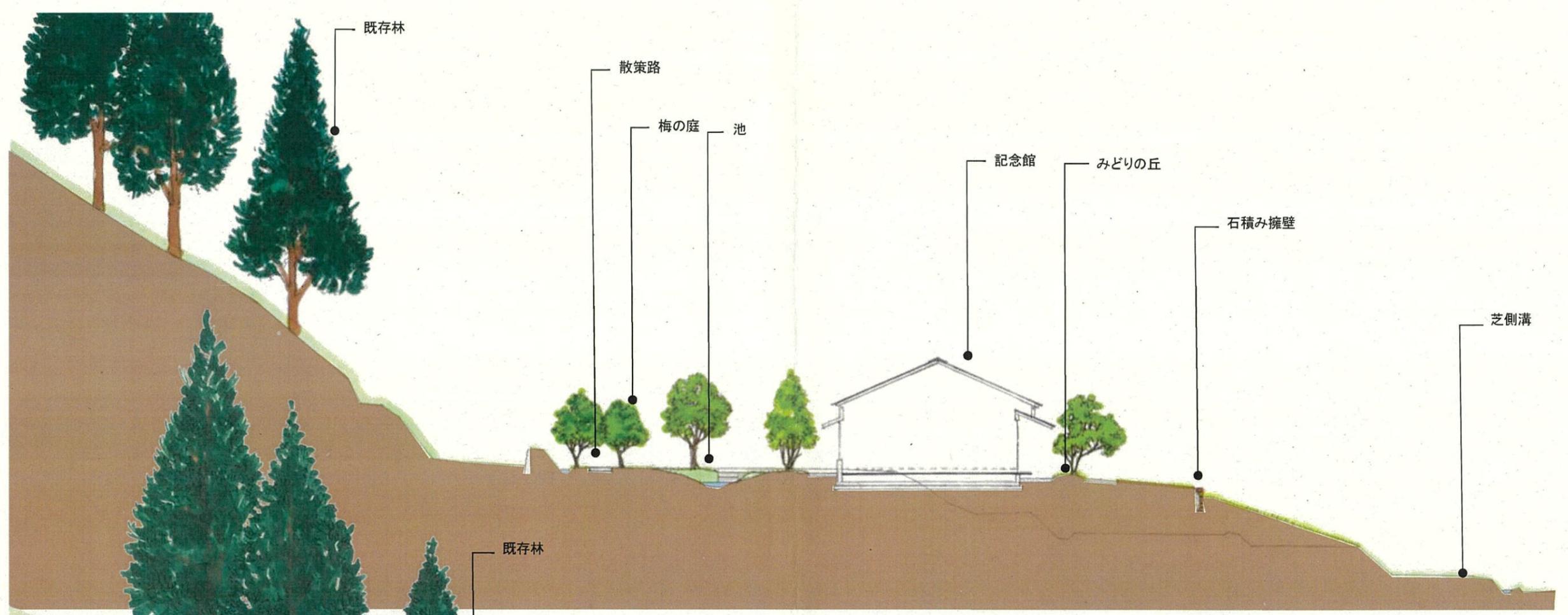


長手断面図
断面図 S=1/100

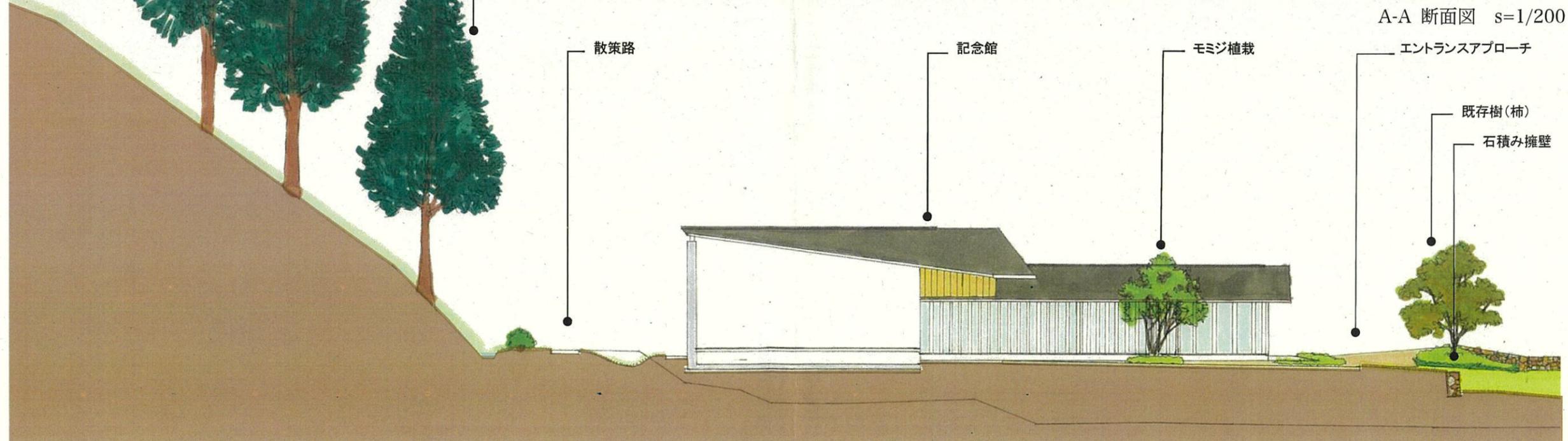
外構図



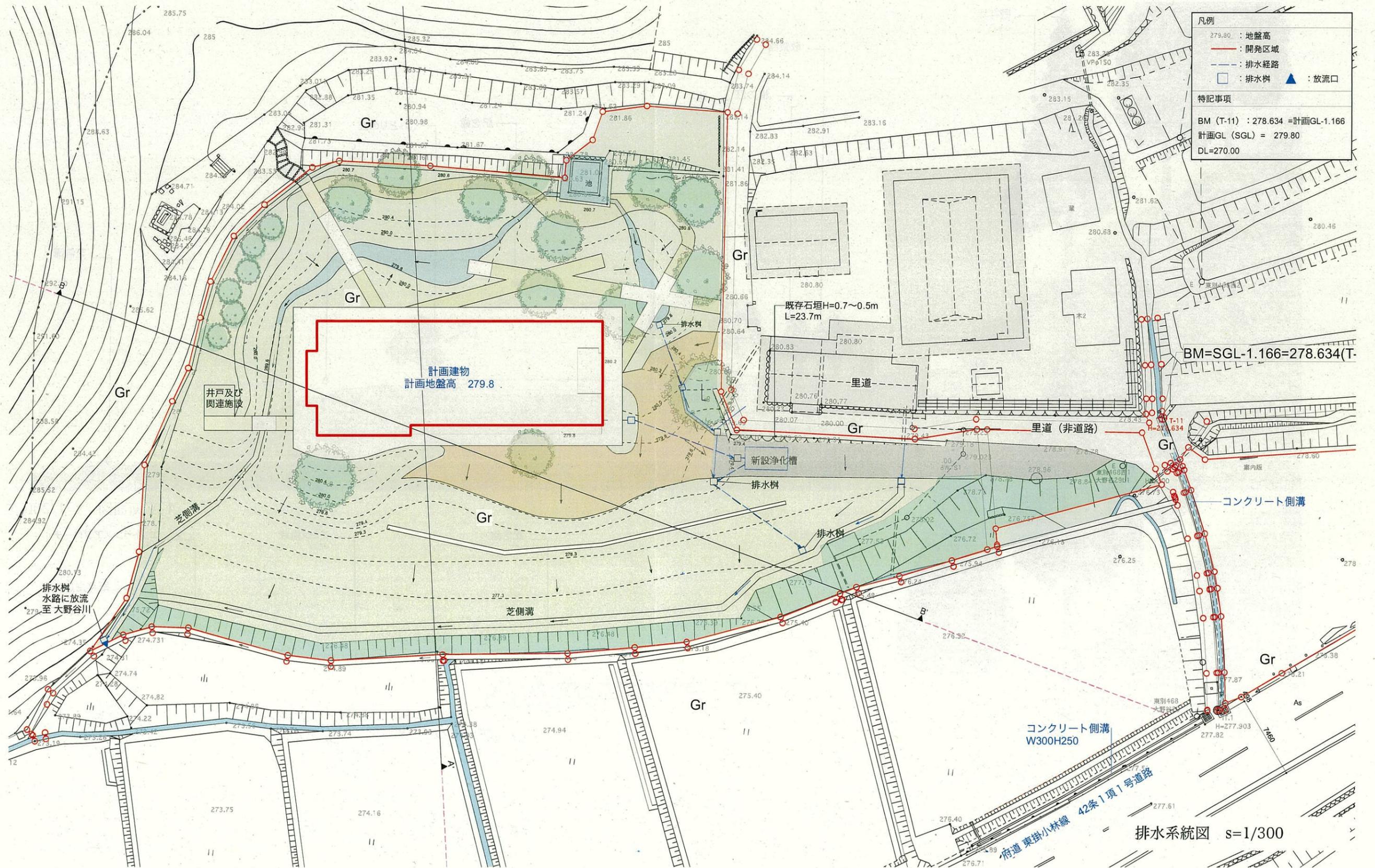
外構計画平面図 s=1/300



A-A 断面図 s=1/200



B-B 断面図 s=1/200



排水系統図 s=1/300

E 経過編

1 建設委員会における協議の変遷

梅岩の里生誕地整備事業に係る公募型プロポーザル実施後、基本計画開始から基本設計完了までに建設委員会にて協議された内容の概要

基本計画

- 第5回建設委員会** プロポーザル案に対するご意見ヒヤリング
 プロポーザル案をベースに、道場の規模や収蔵展示方針を精査しまとめる。
 記念館は山からの水、採光を考慮し府道側へ寄せるのが望ましいが、一方記念館、生家から春現寺への視界は保つ必要がある。
 石垣はあった方がよい。石垣のラインは、景観を損なわないように配慮すること。
 建物全体は1層、床レベル差なしで計画を検討する。
 武道の競技スペースは、団体試合レベルでなくてもよい。現計画より縮小する方向で検討する。床は板張りで適宜マット敷とす
 収蔵が見込まれる資料（掛け軸や江戸時代の書物等）の内容や量を把握した上で、保管と展示方法を検討する。
- 第6回建設委員会** 基本計画のまとめ
 収蔵庫や展示室の仕様、建物配置による地盤改良コストを勘案し、250～300㎡程度の平屋建とする。
 館内は上足（スリッパ等）とし、玄関に踏込を設ける。
 事務室（管理運営用事務スペース）の配置と規模を入場料や物販の有無とあわせて、基本設計段階で検討する。
 記念館では宿泊や飲食営業は想定しない。里山工房や講堂は、複数の活動に対し柔軟に運用できるとよい。
 講堂利用後の使用を想定したシャワーブースを設置する方向で検討する。
 現駐車場は現状のまま活用するものとする。
 南側から強雨時の出水に備え、側溝や蛇籠工等を用い十分な雨水排水計画を計画する。同時に風景に馴染むよう検討する。

基本設計

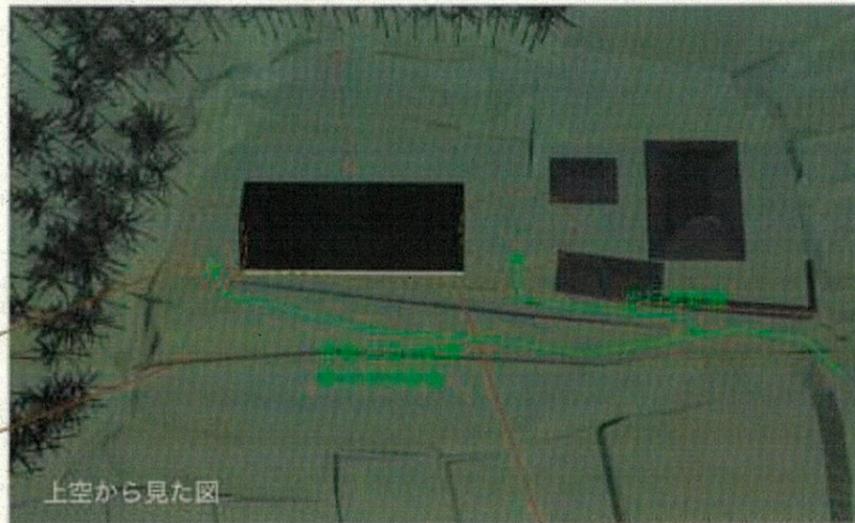
- 第7回建設委員会** 基本設計の前提条件確認
 敷地内全体が生家を尊重するような建ち方を検討する（屋根形状や石垣位置、山からの水に配慮）
 講堂は8m角を確保し、平面計画を再検討する。
 事務室（事務研究等に2人程度）が必要。配置は玄関付近が望ましい（入館料を徴収予定、展示販売などを検討）。
 収蔵展示室は里山工房からガラス越しに収蔵品が閲覧できる方向で検討を進める。
 キッチンコーナーの計画を再検討する。配膳台（60×120から90×180cm程度の大きさ）もしくはその機能を計画要。
- 第8回建設委員会** 建物配置と平面計画について
 断熱グレードや防火基準は一般的な施設のレベルで計画する。
 敷地全体が生家を尊重する建ち方と山から極力離れた立地を両立するため、記念館地盤面を現地盤面から下げ、建物配置を府道側に寄せる方向で検討する。
 石積みに使う石は、市の施設を解体して保管してあるものを活用する。
 事務室の面積を拡大し、事務処理や休憩、出入館や金品（入館料や物販）管理が可能な計画とする。
 キッチンアイランド型として、調理台/配膳台/テーブルと弾力的に運用できる計画とする。
 緑画を計画する。耐久性に問題がない材料を選定する。
 火災報知器を設置する（法的には設置義務はないが、屋根が木造のため）
 間伐は別途発注であるが、間伐材の記念館への使用可能性を考慮し設計をすすめる。
- 第9回建設委員会** 建物配置と地盤高さの決定、建物外観方針の決定、平面計画方針の決定
 建物配置の決定。地盤面を既存から1m程度下げて計画する。
 敷地山側の地面を一部窪ませ、強雨時の遊水池の役割を持たせることで建物への水の影響を緩和させる計画とする。
 山側の排水は埋設管で敷地府道側（田んぼ側）に向かって流すこととする。（流域面積と法定降雨強度により必要排水能力を算出）
 閉鎖空間である事務室（金品管理等）と交流カウンター（里山工房の交流の核、物品やチケットの販売）を計画する。
 平面計画の決定（ただし収蔵庫まわりは資料館と事務局間で調整が必要）
 講堂床を他の床に対し20cm上げ、精神性の高さを感じられる計画とする。また講堂天井高は3m以上を確保すればよいものとする。
 山側のガラス面は雨戸もしくは強化ガラスを計画する（台風での飛来物によるガラス破損リスクを考慮）。
 道場の開口部はガラス（一部開閉可能）と格子戸（開閉可能）を組み合わせ計画する。
 設備（電気・機械）計画の概要を提示、承認。
- 第10回建設委員会** 収蔵展示計画について
 雨水排水放流先は計画地東角として計画をすすめてよい。
 石垣形状の決定。
 収蔵庫のあり方はガラスを介し里山工房とつながる案ですすめることとする。（事務局・資料館間で合意）
 外構計画のうち梅岩先生に緑あるものは、その内容を伝える案内板の設置を検討する。
- 第11回建設委員会** 外構計画について
 既存植栽の移植・伐採の仕分けを協議決定。
 園路についてはコスト的に可能な限り、舗装材を用いて雑草管理を平易にする。
 主要仕上材（建物内外および外構）のカットサンプル等による確認。
- 第12回建設委員会** 概算コスト金額の報告と計画内容の決定
 基本設計概算工事費を算出し報告。基本設計内容の承認。
- 第13回建設委員会** 基本設計報告書の確認
 活用可能な補助金制度等を検討すると同時に、実施設計においてはコスト合理性に配慮した設計を行う。
 ランニングコストを実施設計内で早めに算出すること。
 お墓への階段は拡幅はせず段の補修を行い手すりを設置する。他にバリアフリーのアプローチがあると望ましい。
 交流カウンターにて物品販売を行いやすい様、実施設計にて計画検討する。

2 配置と地盤面の考え方

A.

記念館地面を
既存高さで計画

車椅子用駐車場が
墓所側となる
石垣が既存含め
3段となる



石垣が既存含め
3段となる

生家を尊重した建ち方とするため
記念館を府道側に配置できない

メリット

- ・生家と記念館との移動がしやすく、一体的な外構計画が可能。
- ・周辺の植生を残しやすい。

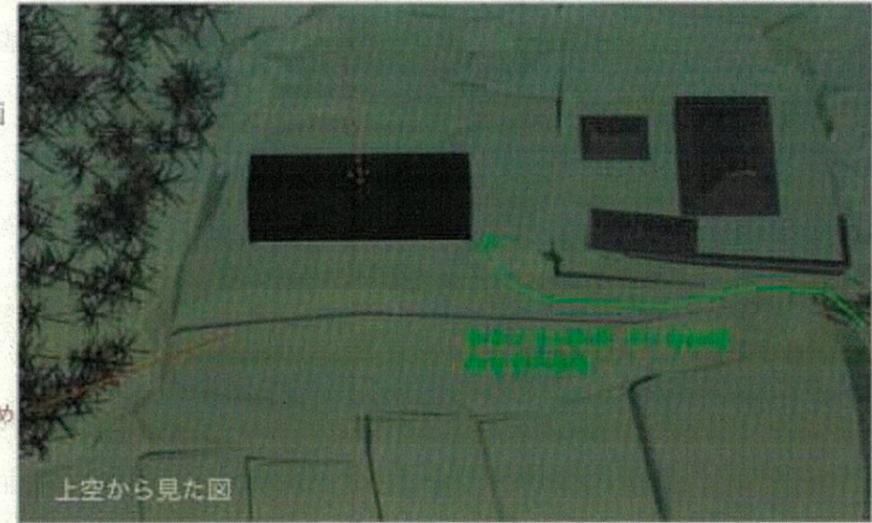
デメリット

- ・車椅子用自動車・緊急車両の動線が建物の裏手になってしまう。
- ・山側の雨水や日照を考慮し府道側に記念館を寄せると、生家に対し出しゃばった印象になり
生誕地整備事業計画地の中で生家をもっとも尊重される建物であるべきなので不適。
- 山側の雨水への配慮が十分にできず、強雨時の懸念事項が払拭されない。

B.

記念館地面を
既存高さ-1000で計画

石垣が既存含め
2段とできる



石垣が既存含め
2段とできる

配置によらず、地盤面が高い生家が
尊重された建物群となる

メリット

- ・生誕地整備事業計画地の中で生家をもっとも高い地盤面に配した建物となり
記念館の配置いかんによらず、生家が尊重された建ち方となる。
- ・上記により山側から記念館を難して配置することが可能になり、強雨時の安心感がある。
- ・車椅子、緊急車両動線を玄関前につけることができる。

デメリット

- ・生家と記念館との動線にレベル差が生じる。
→スロープを1/12~1/16に抑えた車椅子動線を、園地計画とあわせ確保することは可能。

以上の比較により、B案（記念館地盤面を生家地盤高さ-1000とする計画）で進めることとする。

3 石積み範囲の検討

「石積み有り」案

生家と記念館の一体感があるが、石積が長く、除草の際の手間がかかりすぎる懸念がある。



「石積み無し」案

生家と記念館をあわせた屋敷としての一体感に欠ける。



「石積み一部有り」案とする。

生家と記念館の一体感があり、かつ園地との繋がりが感じられる。

石積の除草面積が少ないためメンテナンス性も高い。

